

平成23年度実施事業

協働事業報告会

◆開催日 平成24年5月12日(土)

◆会場 ひらつか市民活動センター

目次

- スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 1
- 応援・連携メッセージ・・・・・・・・・・・・・・・・P 2
- 協働事業報告書
 - ①ひらつか花アグリ花のある景観づくり事業・・・・・・・・P 3
 - ②地場産の花を理解する農業理解促進事業「花育」・・・・P 14
 - ③こころと命のサポート事業「自殺対策啓発事業」・・・・P 23
 - ④男女共同参画推進紙芝居実演及び啓発事業・・・・・・・・P 31
 - ⑤市民活動団体間の連携強化と活動拠点の機能強化・・・・P 41
 - ⑥協働事業の情報発信・・・・・・・・・・・・・・・・P 49
 - ⑦小学生向け財政パンフレットの作成・・・・・・・・・・・・P 57
 - ⑧「地域猫」への取り組み・・・・・・・・・・・・P 65
 - ⑨里地里山保全活動による地域環境再生と共生社会の確立
(グランドワークの推進)・・・・・・・・・・・・P 79
 - ⑩一般家庭での生ごみ処理推進事業・・・・・・・・・・・・P 88
 - ⑪地域防災活動研修の実施と防災ニュースの発行・・・・P 97
- 今後の事業のご案内・・・・・・・・・・・・・・・・P 105

平成23年度実施協働事業 報告会

●開催日：平成24年5月12日（土）

●会場：ひらつか市民活動センター

時 間	内 容
14:00	<p>協働事業報告会開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働事業審査会委員長あいさつ ・協働事業審査会委員紹介 ・事務局説明（スケジュールと発表の方法など）
14:10	<p>平成23年度実施事業の報告（プレゼンテーション）</p> <p>※各事業ごとに報告発表（3分）、審査員からの助言等（3分）</p> <p>◆行政提案型協働事業</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ひらつか花アグリ花のある景観づくり事業 ②地場産の花を理解する農業理解促進事業「花育」 ③こころと命のサポート事業「自殺対策啓発事業」 ④男女共同参画推進紙芝居実演及び啓発事業 <p>◆市民提案型協働事業</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑤市民活動団体間の連携強化と活動拠点の機能強化 ⑥協働事業の情報発信 ⑦小学生向け財政パンフレット作成 ⑧「地域猫」への取り組み ⑨里地里山保全活動による地域環境再生と共生社会の確立（グランドワークの推進） ⑩一般家庭での生ごみ処理推進事業 ⑪地域防災活動者研修の実施と防災ニュースの発行
15:30	<p>閉会予定</p>

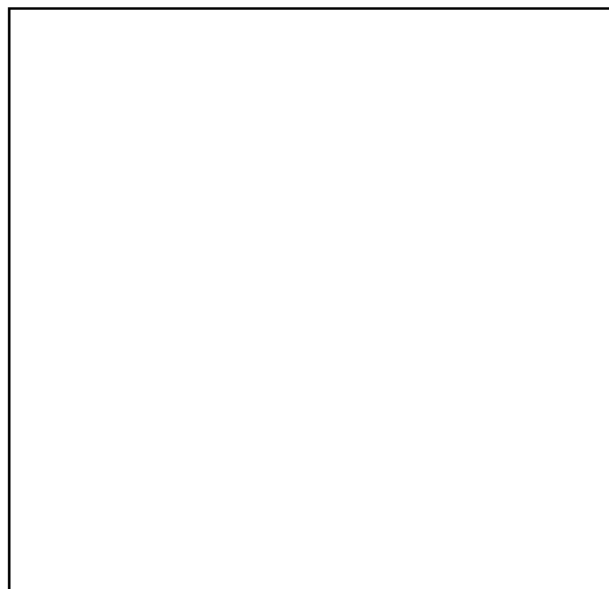
報告（プレゼンテーション）した団体を応援！

コラボ
応援・連携メッセージで
会場からの声を届けよう！

下の付せん（ポストイット）に、応援メッセージを書いて、会場後方のメッセージボードへ貼り付けて下さい。

お名前や団体名などは無記名でも記名でも構いません。

協働事業報告会の最後に、書いていただいた中から、いくつかメッセージを発表いたします。



《こんな声を届けよう》

- ・報告団体へ活動や事業のアドバイスや感想など
- ・自分たちの団体や個人が連携・協力・参加・支援できること
- ・その他、「がんばれ！」の気持ちを込めて伝えたいこと

平成 23 年度実施 協働事業報告書

(あて先)
平塚市長

団 体 名	明日の金田を創る会	
団体代表者	山村 高治	印
事業担当課名	農水産課	
事業担当課長	今井 宏明	印

平成 23 年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	ひらつか花アグリ花のある景観づくり事業		
事業開始年度	平成 21 年度	提案型	<input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	107,980 円	内訳	市の支出 107,980 円 ----- 団体の支出等 0 円
事業の概要	「花菜ガーデン」(県立花と緑のふれあいセンター)の北側に位置する古川排水路沿いの桜並木及び県道平塚・秦野線から市道 寺田縄 25 号選への進入道路の道路残地にある植栽帯に四季折々の花を植栽した。		
実施年月日、実施内容、参加者等	別紙「平成 23 年度 活動記録簿」のとおり		

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

平成23年度 活動記録簿

事業名	ひらつか花アグリ花のある景観づくり事業
-----	---------------------

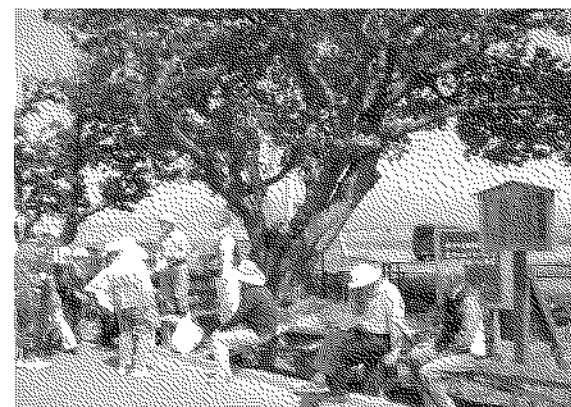
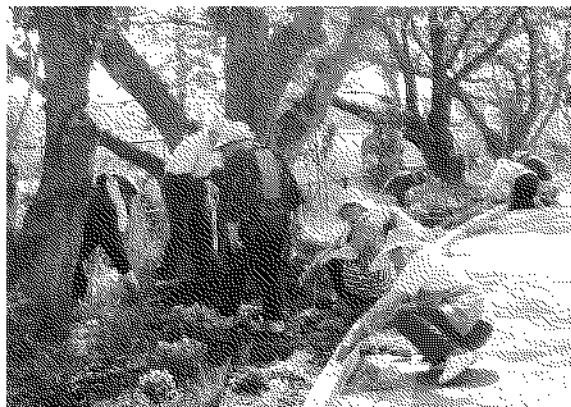
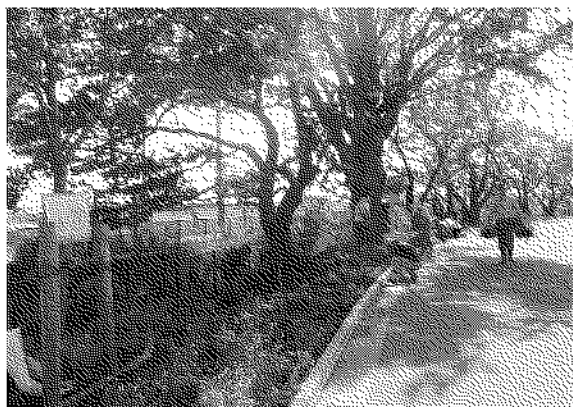
年度	月	日	場所	内容	出席者	
					団体	担当課
平成 23 年度	4	1	豊原分庁舎	協働契約書の締結	1名参加	1名参加
	4	5	金田公民館	役員会	7名参加	
	4	16	古川排水路沿い	草取り、花管理	34名参加	
	4	16	金田公民館	役員会	7名参加	
	5	14	古川排水路沿い	草取り、花管理	35名参加	
	5	24	金田公民館	22・23年度総会(各自治会、長寿会他)	17名参加	
	6	4	古川排水路沿い	草取り、菜種取り、花管理	36名参加	
	6	5	県道残地	プランターに日日草・サルビアの植え付け	2名参加	
	6	12	古川排水路沿い	花管理	5名参加	
	6	14	金田公民館	役員会	7名参加	
	6	18	古川排水路沿い	草取り、花管理	26名参加	
	6	21	豊原分庁舎	意見交換	1名参加	1名参加
	6	25	古川排水路沿い	花管理	6名参加	
	7	2	古川排水路沿い	草刈り、花苗(ポーチュラカ)植付け、花管理	34名参加	
	7	8	豊原分庁舎	意見交換	2名参加	1名参加
	8	2	農の体験・交流館	意見交換	2名参加	1名参加
	8	6	古川排水路沿い	草刈り、花苗(ポーチュラカ)9植付け、花管理、ユースボランティア受け入れ15名	33名参加	
	9	18	古川排水路沿い	草刈り、花管理	10名参加	
	9	22	農の体験・交流館	意見交換	2名参加	1名参加
	10	1	古川排水路沿い	草取り、花苗(日日草・コスモス他)植付け、花管理	25名参加	
	11	13	古川排水路沿い	草取り、花管理、施肥	25名参加	
	12	3	古川排水路沿い・県道残地	草取り、花管理	23名参加	
	12	9	豊原分庁舎	意見交換	2名参加	1名参加
	12	27	農の体験・交流館	意見交換	2名参加	1名参加
	1	11	農の体験・交流館	意見交換	2名参加	1名参加
	1	29	古川排水路沿い・県道残地	草取り、花苗(パンジー・ビオラ)植付け	33名参加	
	2	24	豊原分庁舎	意見交換	2名参加	1名参加
	2	29	金田公民館	役員会議	4名参加	
	3	3	古川排水路沿い・県道残地	草取り、花管理	26名参加	
	3	13	豊原分庁舎	意見交換	1名参加	1名参加
3	24	古川排水路沿い	花苗(パンジー・ビオラ)植え付け	20名参加		
3	28	豊原分庁舎	意見交換	1名参加	1名参加	

平成23年度実施協働事業 決算報告書

項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容、単価・数量等)
① 収入				
市の支出	108,000	107,980	-20	市との協働事業に伴う委託料
収入合計	A 108,000	B 107,980	B-A -20	
項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、支出内容、単価・数量等)
② 支出				
草刈り経費	53,000 (53,000)	27,355 (27,355)	-25,645 (-25,645)	デルタホー、鎌3個、ジョーロ2個等の小農器具類、耕運機燃料 【21・22年度に購入した農器具類を利用したため、予算額より少ない決算額となった。】
花類植栽経費	33,000 (33,000)	49,140 (49,140)	16,140 (16,140)	パンジー、ビオラ等の花の苗、種 【草刈り経費を流用して、パンジー・ビオラ等の花の苗、種を購入し、古川排水路沿いと県道残地の花の数を当初の予定より増やした】
土づくり経費 (肥料代)	5,000 (5,000)	11,182 (11,182)	6,182 (6,182)	堆肥、化成肥料 【土壌の栄養分が不足していたため、予定よりも多く肥料を入れた】
事務費	7,000 (7,000)	8,224 (8,224)	1,224 (1,224)	コピー代、紙等
作業時飲料費	10,000 (10,000)	12,079 (12,079)	2,079 (2,079)	お茶、紙コップ 【現場作業時の飲み物購入に使用】
支出合計	C 108,000 (108,000)	D 107,980 (107,980)	D-C -20 (-20)	
③ 収支決算額	B 107,980円 - D 107,980円 = 0円			【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

平成 23 年度 花のある景観づくり事業 写真



平成 23 年度 花のある景観づくり事業 写真



A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	明日の金田を創る会	■団体 □行政
事業名	ひらつか花アグリ 花のある景観づくり事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	4	平成21年度から平成23年度まで、花のある景観づくり事業を継続して実施しており、事業の目的は共有できていると感じる。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	しっかりと役割分担ができ、スムーズに事業を実施することができた。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	4	平成23年度で、花のある景観づくり事業が終了するので、今後の具体的な展開について、回数を重ね協議を行った。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	4	話し合いを重ねることで、お互いの立場や考え方を理解することができ、共通の視点で事業を実施することができた。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	会の活動や方針を、広報を通じて広く知ってもらうことができ、活動に共感した人（会員）が徐々に増えている。

評価の流れ **A : 「自己」評価シート** → B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	平塚市 農水産課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	ひらつか花アグリ 花のある景観づくり事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	4	平成21年度から花のある景観づくり事業を継続して実施しており、事業の目的は共有できていると感じる。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	農水産課では、主に広報や事業実施に関する協力、助言などを行い、明日の金田を創る会では、日常管理等を行うなど、適正な役割分担の下で事業が実施できている。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	5	平成23年度で花のある景観づくり事業が終了することもあり、今まで以上に協議を行い、今年度の事業の進め方を話し合うとともに、平成24年度の事業の在り方について話し合った。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	4	話し合いを重ねることで、お互いの立場や考え方を理解することができ、共通の視点で事業を実施することができた。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	地域住民で明日の金田を創る会を構成していることから、行政と比べて、柔軟性や迅速性があり、花や植物に詳しい会員もいるので、事業を円滑に推進できた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足(評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	明日の金田を創る会と話し合いを重ねながら、平成 21 年度から事業を実施しているため、目的・目標はおおむね達成できている。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	4	毎月 1~2 回、花の植栽・管理をされており、ユースボランティアの受け入れを行うなど、費用対効果は高い。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)		※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 今後は、アンケートを取るなどして、受益者からの評価を得るようにしたい。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	以前は雑草だらけの場所が、きちんと管理され、花が植栽してあり、近隣住民のみでなく、ひらつか花アグリを訪れる人にとって、憩いの場となっている。
団体のメリット	毎回 20~30 人程度のボランティアが活動に参加するなど、地域のふれあいの場が生まれている。
市のメリット	地域住民で会を構成していることから、迅速性があり、植木職人や農家、花に詳しい者など、専門性を持ったメンバーもあり、事業を円滑に推進できる。

(4) その他、課題やその改善方法など

若年層を取り込んだ中で、明日の金田を創る会の活動を継続的、発展的に実施すること。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他 ()

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

平成 24 年度は、市民提案型協働事業として実施するが、今後は、緑化事業として、他課への事業のつながりも検討するべき項目である。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	明日の金田を創る会	担当課名	農水産課
事 業 名	ひらつか花アグリ花のある景観づくり事業		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

- ・平成21年度から3か年継続した事業であり、相互を十分理解した上で、しっかりとした役割分担のもとに事業を実施することができた。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

- ・月1~2回、花の植栽・管理をしたことで、県道残地と古川排水路沿いの桜並木の周辺に、菜の花、ひまわり、ポチュラカ、パンジー、ビオラなど、四季折々の花を植栽することができ、ひらつか花アグリへの来訪者を花で出迎えると共に、地域住民のふれあいの場ができた。
- ・協働事業を通じて、定期的に花の植栽、管理をし、2年連続でユースボランティアの受け入れも行うことができ、費用対効果は高い。
- ・来年度は、アンケートを取るなどして、受益者からの評価を得るようにしたい。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

- ・平成 20 年度までは雑草だらけの場所が、徐々に整備され、今では、花が植栽・管理されており、その花を鑑賞しに来る人もいるようになった。
- ・年 1~2 回の活動では、20~30 人のボランティアが参加しており、ふれあいの場となっている。
- ・会の活動を広報ひらつかや景観パネル展等を通じて、広く知ってもらうことができ、活動に共感した人に励ましの言葉を頂いたり、活動に賛同した人が会員になるなど、会員が事業を通じてやりがいを感じている。

(4) その他、課題やその改善方法など

- ・継続する仕組みを考える上で、明日の金田を創る会は、自主財源を確保し、事業を実施することが必要になってくる。
- ・若年層を取り込んだ中で、明日の金田を創る会の活動を継続的、発展的に実施することが必要になってくる。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（提案型 提案型以外） 休止または終了
行政が単独で実施 団体が単独で実施
その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

- ・平成 24 年度は、市民提案型協働事業として事業を実施し、自主財源としてざる菊を有償提供することで、事業収入とする予定だが、今後は、自主財源比率を高めるようにしていきたい。
- ・平成 25 年度以降は、緑化事業として、他課への事業のつながりも検討すべき項目である。

平成23年度実施 協働事業報告書

(あて先)
平塚市長

団 体 名	花育ボランティア「花伝道師」
団体代表者	横田 八重子 印
事業担当課名	農水産課
事業担当課長	今井 宏明 印

平成23年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	地場産の花を理解する農業理解促進事業「花育」		
事業開始年度	平成22年～	提案型	<input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	429,749 円	内 訳	市の支出 301,549 円 ----- 団体の支出等 128,200 円
事業の概要	県内でも有数の花き産地であることの利点を活かし、「花と緑にふれあいを持って、生命と自然についての理解を深める」ことを目的とした。特産品のバラなど、多種多様な地場産の花を通じて、遊びながら植物を知ってもらう活動を実施。生産現場や花とのふれあい体験を絡めたイベントの参加・企画を行い、地場産の花の魅力や楽しみ方の普及。小さい頃から花と親しむ機会を増やし、花が生活の中で身近にある環境を提供した。		
具体的な実施内容	<p>① 保育園、幼稚園における花育の実施（対象：園児・親） 小さい頃から花と親しむ機会をつくり、花が生活に身近にあることを提供 主な活動内容：地場産の花の紹介・紙芝居・押花体験・作画</p> <p>5月18日・26日 黒部丘幼稚園 参加20名余 6月8日・21日 吉沢保育園 参加20名余 7月6日 真土すばる保育園 参加20名余 10月4日・14日 ひばり幼稚園 参加20名余 10月19日・26日 神田保育園 参加20名余 11月11日・17日 金目幼稚園 参加20名余 12月12日・19日 若草保育園 参加20名余 1月19日・26日 しらさぎ保育園 参加20名余 1月31日・2月7日 花水台保育園 参加20名余 2月16日・23日 須賀保育園 参加20名余 3月13日 大神保育園 参加20名余</p> <p>② 生産者とのふれあい事業（対象：子ども～大人） 花き産地の利点を活かして、生産現場を見学するツアーのコーディネートを実施。</p>		
実施年月日、実施内容、参加者等をご記入ください。			

主な活動内容：生産現場の紹介・体験コーナーのサポート
12月3日 参加者：一般市民17名
洋蘭生産者1箇所・バラ生産者1箇所→市内農産物直売所（あさつゆ広場）
3月30日 参加者：一般市民（親子で参加）7組17名
切花生産者1箇所・鉢花生産者1箇所
なでしこ収穫体験と素焼き鉢のデコレーション体験（通称：でこっぱち）

③ 地場産の花き植栽体験（対象：子ども～大人）

生産者を講師に、八幡山洋館での花壇づくりの植栽体験の実施。

主な活動内容：地場産の花の紹介、植栽に関する注意点

6月11日 参加者：一般市民12名

11月19日 参加者：一般市民（親子で参加）3組8名

青少年課と合同で植栽体験を企画→雨天により「でこっぱち」に変更

④ 花カフェの開催（対象：子ども～大人）

地場産の花をテーマとしたカフェの開催。花を通じてのコミュニケーションの促進と花関係者に対して事業展開への研究。

主な活動内容：フラワーアレンジ体験、花の鑑賞でのお茶などの憩いの場の提供。

12月3日 フラワーアレンジ体験参加者 35名

2月12日 ブーケづくり体験参加者 54名

⑤ 地場産の花の楽しみ体験

地場産の花を使い、イベント会場で様々な体験コーナーを実施

4月29日 緑化まつり

でこっぱち体験 参加者105名

*でこっぱち＝素焼き鉢にそれぞれ自由に絵具を使って作画し、オリジナルの鉢を作り、最後に地場産の鉢花を渡して花を育ててもらう。

6月2日～7日 湘南ひらつかフラワーシティ

押花体験 参加者61名

10月7日～9日 バラの一輪挿し花瓶コンテスト

ミニブーケ作り 参加者56名

11月12日・13日 でてこいまつり

ミニフラワーアレンジ 81名

でこっぱち体験 120名

3月1日～6日 平塚市春の花き展

押花体験 55名

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

平成23年度実施協働事業 決算報告書

項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容、単価・数量等)
① 収入				
市の支出	524,000	301,549	-222,451	残余金が発生したため返金
団体の支出	0	0	0	
事業収入	105,000	128,200	23,200	バスツアー参加料@1,000×17人、@500×17人 花カフェ体験料@500×89人 その他各種イベント体験料
収入合計	A 629,000	B 429,749	B-A -199,251	
② 支出				
ツアーバス代	204,000 (114,000)	0 (0)	-204,000 (-114,000)	バスの借上げが旅行業法上、行えなかったため
花・材料費	242,000 (227,000)	283,405 (155,205)	41,405 (-71,795)	花材、培養土、肥料他
消耗品費	92,000 (92,000)	87,954 (87,954)	-4,046 (-4,046)	ラミネートフィルム、ボンド、コピー代他
謝礼	15,000 (15,000)	15,000 (15,000)	0 (0)	講師謝礼
交通費	33,000 (33,000)	33,000 (33,000)	0 (0)	打ち合わせ訪問時等ガソリン代
負担金	26,000 (26,000)	0 (0)	-26,000 (-26,000)	花菜ガーデン入園料
通信費	4,000 (4,000)	4,000 (4,000)	0 (0)	
雑費	13,000 (13,000)	6,390 (6,390)	-6,610 (-6610)	ツアー傷害保険料等
支出合計	C 629,000 (524,000)	D 429,749 (301,549)	D-C -199,251 (-222,451)	
③ 収支決算額	B	429,749円	- D	0円
【備考】				

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A:「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	花育ボランティア「花伝道師」	■団体 □行政
事業名	地場産の花を理解する農業理解促進事業「花育」	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	行政と共に活動していく中で目的意識が高まっていった。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	適正であったと思う。団体・行政双方で役割分担を明確にしていく場をもった。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	4	お互いの長所・短所を確認し十分に協議を行ったが、イベントや行事が重なる時期では協議が不足した部分もあった。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	4	前年度では双方ならびに花き生産者と立場が不明確な部分があったが、その反省からそれぞれの立場やできることを確認しながら事業を実施した。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	広報などで宣伝効果を得られた。

評価の流れ **A:「自己」評価シート** → B:「相互」評価シート → C: 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	予定していた事業計画をすべて実施
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	4	花き生産者から価格以上の品質の花材をいただいていた。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など参加者の声やアンケート等からはかなりの効果があったのではないかと。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	花の楽しみ方を無料や通常より低価格にて体験できる。
団体のメリット	花好きのメンバーのふれあいの場になり、また花の知識向上や情報収集につながる
市のメリット	花のPRを行政が単独で行うより効果がある。

(4) その他、課題やその改善方法など

生産者との交流を深めること

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（ 提案型 提案型以外）
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

協働事業が終了となるので、今後の活動について、行政と相談しながら今後も花育活動を行う。

A:「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	農水産課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	地場産の花を理解する農業理解促進事業「花育」	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	4	地場産の花を広く周知するという前提のもと、より積極的にPRをしていただいた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	2年目になる協働事業の中で、前年の経験から役割の見直しを図り、双方の適した役割になった。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	5	週1回、事業について会議する場を持ち、企画の確認や花材の有無などを協議した。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	4	前年度では団体・市そして花普及に関わる花生産者それぞれの立場やできることに理解が得られなかった部分があったが、今年度は生産者を講師に招いて体験を教授いただいたりして理解を深めながら事業を実施した。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	花好きのボランティアによる地場産の花のPRの効果が大きく、それを行政が広報などで周知することで波及効果を得られた。

評価の流れ **A:「自己」評価シート** → B:「相互」評価シート → C: 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	バスの借上げができなかったが、市のマイクロバスで対応した事業も含め、予定していた事業計画をすべて実施できた。また、そのすべてに地場産の花をPRできた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	5	花き生産者の協力で通常価格より上質な花材を提供いただいた。団体からは地場産の花の楽しみ方を様々な方法を企画していただいた。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など受益者全員に評価をいただくのは難しいが、アンケートでは満足度の高い評価をいただき、また、幼稚園・保育園での花育については年々依頼を受ける数が増えている。

(3) 実施したメリット

市民の メリット	花の楽しみ方を無料や通常より低価格にて体験できる。
団体の メリット	花好きのメンバーのふれあいの場になり、また花の知識向上や情報収集につながる
市の メリット	花のPRを行政が単独で行うより効果がある。

(4) その他、課題やその改善方法など

協働事業終了後、継続的に花育活動ができるかの検討
予算が制限される中で新たな花育事業の検討が必要

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（提案型 提案型以外）
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

協働事業が終了となるが、引き続き団体と花育活動を希望する。
地域や行政などと合同で花育活動を模索する

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	花育ボランティア 「花伝道師」	担当課名	農水産課
事 業 名	地場産の花を理解する農業理解促進事業「花育」		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

相互普及や波及効果について昨年に引き続き高い評価となった。
 昨年は「十分な協議」という点で団体側から低評価だったが、今年度は団体・市それぞれの立場やできることを確認し、十分に協議を行い、それぞれが責任をもって事業を実施できた。
 役割分担について協働事業が2年目となり、昨年の経験に基づき、修正しながら適正に行えた。
 目的共有については「地場産の花」というもの強く意識してPRできた。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

花の普及活動は受益者からの評価がすぐには反映されにくいものではあるが、アンケートを実施した事業では高い評価をいただいた。
 イベント収入が昨年より約2倍になったことから花育体験に多くの方が参加いただき関心をもってもらったと感じている。
 また、幼稚園・保育園での花育体験では22年度が8園実施したのに対し、23年度が11園の希望があり、実施したことから関心が高まっていると推測される。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

市民は地元の花を親しむ機会が増え、特に子どもに対しては生命と自然について理解を深めることができた。

団体はもともと花が好きで集まったメンバーが、地場産の花とふれあいながら知識や経験を得ることができた。

市は県内有数の花きの産地であることのPRを団体で行ったことで、単独で行うよりも大きい成果を得ることができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

昨年からの課題であった生産者とのコミュニケーション不足があまり解消できなかった。植栽体験・イベントなどで一部の生産者には参加いただき、また、生産者を講師に招き、「苔玉作り体験」を教わるなどで花育活動に参加していただけたが、花き産業全体が厳しい状況にあり、今年度も花き生産者が花育事業にかかる余裕がなかった。

(5) 今後の具体的な展開

■今後も双方で実施 (□提案型 ■提案型以外)

□休止または終了

□行政が単独で実施

□団体が単独で実施

□その他 ()

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

今後も団体・行政はもとより、地元の花生産者とも花育活動を行っていく。

2年間行った協働事業を振り返り、事業の取捨を行う。予算については材料費を徴収するような形や、花き生産者からの提供や低価格での買上、さらには他団体から花育体験を要請された場合には講師料などで対応できるかを検討。

平成23年度実施 協働事業報告書

(あて先)
平塚市長

団体名	浜岳中学校区子ども読書活動推進協議会	
団体代表者	諸山朝子	印
事業担当課名	くらし安全課	
事業担当課長	鈴木千代治	印

平成23年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	こころと命のサポート事業「自殺対策啓発事業」		
事業開始年度	平成22年～	提案型	<input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	102,214 円	内訳	市の支出 79,720 円 ----- 団体の支出等 22,494 円
事業の概要	市では、平成20年7月に「平塚市民のこころと命を守る条例」が施行されたことを受けて、条例の目的である「市民が健康で生きがいを持って暮らすことができる社会の実現」を目指し、こころと命のサポート事業として命の大切さや尊さについての普及啓発を推進している。その普及啓発の一つとして、団体が行っている本や絵本を通じた活動の中に、「命の大切さや尊さを伝える」という視点を盛り込み、地域の幅広い年代に普及啓発を図る。		
具体的な実施内容	<p>(1) いのちの尊さをつたえる本 vol. 3「元気になりたいときに読みたい本」ブックリスト作成 (他地区の協議会へも提供)</p> <p>(2) いのちの尊さをつたえる本のリストを活用した読み聞かせ活動 花水台保育園 (週1回朝の読み聞かせ)、花水小学校 (月1回朝の読み聞かせ)、なでしこ小学校 (月1回朝の読み聞かせ)、平塚工科高校、浜岳中学校 のべ実施回数125回、のべ参加者数2,535人</p> <p>(3) 浜岳中学校美術部生徒による「命の尊さを伝える自殺予防啓発ポスター」募集 20枚集まり、9月から3月一杯まで駅地下道広告板に掲示。またポスターを描いてくれた生徒の有志が自殺予防啓発街頭キャンペーンに参加</p> <p>(4) 桂才紫落語会～幸せな笑いの時間を共に過ごしましょう～ 日時 平成23年11月20日(日)13:00～16:00 場所 花水公民館ホール 講師 桂才紫さん 参加者 小学生の部…45人、一般の部…51人</p> <p>(5) 機関紙「えがおで本！」へ協働事業の取り組みについての記事を掲載し、自治会回覧(7、3月発行)</p>		
実施年月日、実施内容、参加者等をご記入ください。			

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以上

平成23年度実施協働事業 決算報告書

項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容、単価・数量等)
① 収入				
市の支出	80,000	79,720	280	報償費、消耗品費、印刷製本費
団体の支出	0	22,494	22,494	報償費 (2回公演に増やしたため増額)、通信費、交通費、食糧費
事業収入	0	0	0	
収入合計	A 80,000	B 102,214	B-A 22,214	
② 支出				
報償費	50,000 (50,000)	70,000 (50,000)	20,000	落語会講師謝礼 (2回公演に増やしたため団体で補助)
消耗品費	25,000 (25,000)	24,251 (24,251)	△749	紙芝居用舞台、紙芝居、ブックコートフィルム、色画用紙、模造紙
印刷製本費	5,000 (5,000)	5,469 (5,469)	469	いのちの尊さをつたえる本 vol.3 リストのカラーコピー
通信費	0 (0)	160 (0)	160	落語会講師へ打ち合わせ資料郵送
交通費	0 (0)	1,600 (0)	1,600	落語会講師タクシー代 (団体負担)
食糧費	0 (0)	734 (0)	734	落語会講師昼食 (団体負担)
支出合計	C 80,000 (80,000)	D 102,214 (79,720)	D-C 22,214	
③ 収支決算額	B 102,214円	- D 102,214円	≒ 0円	【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	浜岳中学校区子ども読書活動推進協議会	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	こころと命のサポート事業（自殺対策啓発事業）	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	行政の大変熱心な取組みに団体のモチベーションも上がり、双方意識の高いところでの目的共有ができた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	それぞれの能力を最大限に活かした役割分担ができた。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	5	必要な時は担当者が労をいとわず駆けつけてくれ、十分に相互理解、協働ができた。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	5	団体の地道な活動を良く理解し尊重してもらえた。そのことにより、個々の意識も高まった。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	幼児から高齢者まで幅広い世代に投げかけが出来た。特に、中学生にポスター制作、公共の掲示板への掲示、キャンペーン活動の機会を頂けたことは、単独ではとても成しえず意義があった。

評価の流れ **A : 「自己」評価シート** → B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足(評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	浜岳中学校区では十二分に達成できた。他の中学校区にブックレットを活用してもらうことはできたが、事業を開催してくれる中学校区の出現には至らなかった。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	5	経費の数倍の波及効果があげられた。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 「いのちのバトンを自分に繋いでくれた先祖に感謝し、大事に次に手渡したい」「自分がいかに大事に育ててもらったかよくわかった」(中学生の感想より)大人たちが協働で真剣に取り組んでいることが心に届いている。

(3) 実施したメリット

市民の メリット	自分を大事にすることができ、周りの人をも大事にすることができる。
団体の メリット	活動の意義を再確認でき、モチベーションを高められた。
市の メリット	幅広い世代の心に届く普及啓発ができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

事業を開催する中学校区の出現がなかった。機会あるごとに活動を紹介し、働きかけをする。

(5) 今後の具体的な展開

■今後も双方で実施 (□提案型 ■提案型以外)

□行政が単独で実施

□その他 ()

□休止または終了

□団体が単独で実施

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

期限付きで取り組みを終えるような内容ではないので、年間の読み聞かせ活動のなかで「いのちの本」を継続的に取り入れ、機会あるごとに市民に発信をしていく。読み聞かせ講座の講師謝礼をいただける機会が増えてきた。個々がスキルアップに努め、楽しく活動を継続する。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	くらし安全課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	こころと命のサポート事業（自殺対策啓発事業）	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	命の尊さの普及啓発や、自分を大切に思う心を育むことが 長い目でみた自殺予防につながるという認識の一致
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	団体は本の読み聞かせなどの具体的な活動を通じて命の尊 さを啓発。行政は、広報・PR活動を中心に役割分担
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	5	必要に応じて、打ち合わせや意見交換を行った。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	5	お互いができること等を理解しあったうえで実施できた。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	地域レベルの啓発につながった。

評価の流れ **A : 「自己」評価シート** → B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足(評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	浜岳中学校区との協働においては十分に達成できた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	5	小中学校等で行った地道な読み聞かせの活動の参加人数がのべで2,000人以上になることから十分効果は得られていると考える。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など

(3) 実施したメリット

市民の メリット	命を大切に思う心や自尊感情が育まれる。
団体の メリット	活動の意義を再確認できた。
市の メリット	地域に根ざした普及啓発を推進できた。

(4) その他、課題やその改善方法など

(5) 今後の具体的な展開

今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)

行政が単独で実施

その他 ()

休止または終了

団体が単独で実施

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

B：「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A：自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団体名	浜岳中学校区子ども読書活動推進協議会	担当課名	くらし安全課
事業名	こころと命のサポート事業（自殺対策啓発事業）		

（1）協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

命の大切さ、尊さについて理解し、自己肯定感を持つ子どもたちを育てていくことが、長い目を見た「自殺予防」につながる、という大きな目的を共有。

団体には、本の読み聞かせなどを通じた具体的な活動の中に、「命の大切さ、尊さ」の視点を取り入れてもらう、行政は広報・PR活動を中心に役割を分担。

必要に応じて打ち合わせや意見交換をし、イベントなどを実施。

高い意識を共有し、達成感を味わえる活動ができた。

（2）事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

成果物として、いのちの尊さをつたえる本 vol.3「元気になりたいときに読みたい本」のブックリストが完成し、他地区協議会へ提供するほか、増刷をして研修会などで配付。また、このリストの中の本を保育園、小学校、中学校、高校での読み聞かせに活用。

こころが元気になるよう、幸せな笑いの時間を共有できる「落語会」を実施、幅広い年齢層に楽しんでもらえるよう子ども部、一般の部の2回開催。

命の大切さを伝える取り組みに、中学生に参加してもらったことなどを通じ、地域や学校にこの取り組みを知ってもらうことができた。

評価の流れ A：「自己」評価シート → **B：「相互」評価シート** → C：審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

中学校区限定の活動から、全市に視野を広げて活動ができた。カラー印刷のブックレットを作ってもらえた。中学生に活躍の場をつくってもらえた。等、団体の力だけでは成しえない事業展開ができた。このことから団体のモチベーションが上がり、ますます活動が楽しく活発になり、市民に発信でき、市は幅広い年齢層に対して啓発ができ、と大変良い循環ができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

熱い思いからつい勢いを増してしまいがちだが、長く継続するために負荷軽減にも気をつけた。同様な事業展開をしてくれる中学校区の出現を期待し、発信していく。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (□提案型 ■提案型以外) □休止または終了
□行政が単独で実施 □団体が単独で実施
□その他 ()

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

団体が継続実施している保育園での「中学生だっこボランティア」を協働事業に昇華させ、中学生が乳幼児とふれあうことで命の尊さを体感する機会としたい。また、中学生のポスター制作、地下道掲示、キャンペーン参加は継続、充実させたい。そのようなことから、他中学校区への波及を期待したい。

団体は読み聞かせ講座の謝金等の財源確保ができたので、さらなるスキルアップに努め、活動が末永く継続できるように努める。

平成23年度実施 協働事業報告書

(あて先)
平塚市長

団 体 名 平塚てづくり紙芝居の会

団体代表者 鈴木 恵子 印

事業担当課名 人権・男女共同参画課

事業担当課長 池田 圭子 印

平成23年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	男女共同参画推進紙芝居実演及び普及啓発事業		
事業開始年度	平成21年～	提案型	<input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	11,780円	内訳	市の支出 4,180円 ----- 団体の支出等 7,600円
事業の概要	<p>・幼児に対して男女共同参画の意識啓発をする大切さと、紙芝居の効果的な実演の仕方を保育士等に講義する。</p> <p>・将来を担う若い世代への男女共同参画を推進するため、啓発用として製作した紙芝居（3作品）を、幼稚園児、保育園児等に実演する。</p>		
具体的な実施内容	<p>(1) 幼児に対して男女共同参画の意識啓発をすることの大切さと、平成20年～22年にかけて製作した手づくり紙芝居の効果的な実演の仕方をこども家庭課の保育士へ講義した（年2回開催）。 また、講義用の資料として、実演の仕方を分かりやすく解説した冊子を作成した。</p> <p>①平成23年10月11日（火）14時～14時30分（A会議室） 参加人数：13人</p> <p>②平成23年11月8日（火）14時～14時30分（A会議室） 参加人数：13人</p> <p>(2) 市内幼稚園、保育園等で平成20年度から平成22年度に啓発用に製作した3作品の紙芝居の実演を行った。（別紙：平成23年度紙芝居実演実績報告書のとおり）</p>		

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

平成24年3月31日

平成23年度紙芝居実演実績報告書

	上演日時	会場	対象者	参加人数	実演 計画 有無	実演 従事者 数
				内訳：大人○人、子ども○人		
記入例	年 月 日()	〇〇 保育園	〇才児 保育士、	〇〇人 内大人〇人、子ども〇人	有	〇人
1	平成23年 5月24日(火)	しらさぎ 保育園	5歳児 保育士	37人 内大人2人、子ども35人	有	2人
2	平成23年 6月7日(火)	須賀 保育園	4歳児 保育士	49人 内大人4人、子ども45人	有	1人
3	平成23年 6月15日(水)	金田 保育園	4,5歳児 保育士	45人 内大人5人、子ども40人	有	2人
4	平成23年 6月22日(水)	神田 保育園	5歳児 保育士	30人 内大人4人、子ども26人	有	2人
5	平成23年 6月22日(木)	県立大原 高等学校	高校1,2 年生	32人 内高校生32人	無	1人
6	平成23年 7月20日(木)	ひばり 幼稚園	4,5歳児 教諭	48人 内大人3人、子ども45人	有	2人
7	平成23年 10月5日(水)	さくら 幼稚園	4,5歳児 教諭	55人 内大人3人、子ども52人	有	1人
8	平成23年 10月13日(木)	土屋 幼稚園	4,5歳児 教諭	36人 内大人3人、子ども33人	無	2人
9	平成23年 10月14日(金)	港 幼稚園	5歳児 教諭	29人 内大人2人、子ども27人	有	1人
合 計 9回				361人 内 大 人 26人 高校生 32人 子ども 303人	有 7件 無 2件	14人

平成23年度実施協働事業 決算報告書

項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容、単価・数量等)
① 収入				
市の支出	7,540	4,180	△3,360	残余金発生のため3,360円戻入
団体の支出	11,600	7,600	△4,000	
事業収入	0	0	0	
収入合計	A 19,140	B 11,780	B-A △7,360	
② 支出				
消耗品費	3,000 (3,000)	60 (60)	△2,940	資料作成用の紙代 (市のコピー機を利用したため減額)
編集費	10,140 (2,140)	5,640 (1,640)	△4,500	紙芝居の効果的な実演研修のための講師謝礼 (往復交通費+図書券1,000円)
人件費	2,400 (2,400)	2,480 (2,480)	80	保育士への講義 (30分@400円×2回) 紙芝居の上演に伴う交通費 (土屋幼稚園までのバス代: 840円×2人)
借り上げ料	3,600 (0)	3,600 (0)	0	ひらつか市民活動センターロッカー借用料 (*会が金額負担)
支出合計	C 19,140 (7,540)	D 11,780 (4,180)	D-C △7,360 (△3,360)	
③ 収支決算額	B 11,780円	- D 11,780円	= 0円	

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	平塚てづくり紙芝居の会	■団体 □行政
事業名	男女共同参画推進紙芝居実演及び普及啓発事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	本年度は前2年度のしめとして、実演だけでなく制作した紙芝居を保育の現場で生かすことを目的とした。 共通の目的に基づいて事業を遂行できたと認識している
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	事業内容を一部変更したため、行政の事務量が多くなってしまったが、ほぼ当初の役割が果たせた
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	5	継続事業のため、お互いの立場が理解しやすくなっており、よくできたと認識している
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	5	これも継続事業であり、主担当者の変更もなかったため、下地ができており楽だった
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	4	

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足(評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	今年度の事業開始直前の大震災の影響により、団体の中で協働事業に従事できる人員が減り、当初予定していた事業ができなくなり、行政側と話し合いをして事業内容を変更せざるを得なかった。そうした状況を前提にして事業はよく遂行できたと認識している ただ団体としての組織的目的は果たせていない(紙芝居、主に実演の勉強をして技術を磨いて実演に行く)
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	5	
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 保育士さんへのアンケート

(3) 実施したメリット

市民のメリット	てづくり紙芝居というコミュニケーションツールにより、お話として聞くことができるので堅苦しくない
団体のメリット	紙芝居制作と実演ができる 行政との協働事業がどういうものかわかる 実演場所と人的つながりができ、継続して実演会ができるようになった
市のメリット	

(4) その他、課題やその改善方法など

3・11の影響で契約した事業を組織として遂行することができるのか、危ぶまれる事態だったにもかかわらず、予定していた事業をほぼやり遂げることができました。よくやったと思うし、ほっとしました。協働事業は終了しますが、これからは希望があれば紙芝居を実演する形でゆるやかな協力をしていきたいと考えております。
子供達の反応を見ていると手応えを感じるのですが、啓発事業の効果はすぐに出るものではなくまた数字で表すことは難しい。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)
 行政が単独で実施
 その他 (

- 休止または終了
 団体が単独で実施

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

紙芝居の制作や実演の経験を生かし、これからも団体の目的を達成するため地域の中で活動していきます。紙芝居制作の技術を伝えて作る人を増やしていきたい。私たちの目的や文化芸術活動であることを考えると息の長い活動であることが最も大切だと考えています。紙芝居以外のてづくり本や演劇脚本なども郷土資料として視野に入れつつ、作品を創り技術を磨いてよりよい公演をしていく、それを長い年月をかけて地道にやっていくつもりです。

平塚市のはじめて協働事業に参加して、今後につながる道を築けたこと、また3年間継続して事業をやり遂げられたことは誇りにできることで、良いスタートができました。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	人権・男女共同参画課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	男女共同参画推進紙芝居実演及び普及啓発事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	4	事業も3年目となり、「男女共同参画の推進というテーマを子どもたちに分かりやすく伝える」という大きな目的はお互いに共有できた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	双方とも役割分担をすることで効率的に事業を進めることができた。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	4	契約を結ぶ段階から、課題が発生する度に話し合う場を設けることを心掛けており、十分に協議を行うことができたと思う。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	4	対等な立場を尊重して事業を進めることができた。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	4	紙芝居のノウハウや団体ならではのアイデアを盛り込むことが可能となり、効果的な事業を展開することができた。

評価の流れ **A : 「自己」評価シート** → B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足(評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	今年度は、子どもたちに上演するだけでなく、子どもたちと日常的に接している保育士に対し、効果的な上演の仕方に関する講義を通じて、男女共同参画に関する考え方や子どもへの意識啓発の大切さを伝えることができた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	5	少ない経費の中で、経費以上のサービスを提供することができた。また、保育士向けの講義資料として作成した冊子は、今後の普及啓発にも幅広く活用できるような内容に仕上げることができた。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 事業終了後に保育士にアンケートを実施した。内容や資料が分かりやすかったという意見が多かった。また、「子どもたちに読んであげたい」「是非活用したい」という意見もいただいた。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	子どもたちに親しみのある「紙芝居」を通して、楽しく男女共同参画について知ることができた。
団体のメリット	製作した紙芝居をもう一度振り返り、脚本、絵等について良かった点、修正すべき点を洗い出すことで、今後の紙芝居製作に活かすことができた。
市のメリット	子どもたちだけではなく、子どもたちと日常的に接している保育士に対し、上演の仕方に関する講義を通して、男女共同参画に関する考え方や子どもへの意識啓発の大切さを伝えることができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

保育士への講義については、時間の制約があったため全てを伝えることは難しかったが、内容を充実させた資料を用意することで、誰が読んでも分かりやすい実演のコツを伝えることができたと思う。

(5) 今後の具体的な展開

今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)

行政が単独で実施

その他 ()

休止または終了

団体が単独で実施

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

協働事業としては、今年度で終了するが、できれば来年度も幼稚園や保育園でボランティアとして上演していただき、今後も子どもたちへの啓発に活かしたい。

また、講義を受けた保育士を始め、多くの方に実際に紙芝居を活用してもらえよう、呼びかけていきたい。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団体名	平塚てづくり紙芝居の会	担当課名	人権・男女共同参画課
事業名	男女共同参画推進紙芝居実演及び普及啓発事業		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

- ・大震災の影響で団体の中で協働事業に従事できる人員が減り、当初予定していた事業を縮小して契約をする形となったが、保育士への講義や、保育園や幼稚園での上演を予定どおり実施することができた。
- ・継続事業のため、お互いの立場は理解しやすくなっており、また課題が発生する度に話し合う場を設けることを心掛けてきたので、十分な協議ができた。
- ・紙芝居のノウハウや団体ならではのアイデアを盛り込むことが可能となり、効果的な事業を展開することができた。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

- ・今年度の事業開始直前の大震災の影響により、団体の中で協働事業に従事できる人員が減り、当初予定していた事業ができなくなり、行政側と話し合いをして事業内容を変更せざるを得なかった。そうした状況を前提にして事業はよく遂行できたと認識している。
- ・少ない予算の中で、経費以上のサービスを提供することができた。また、保育士向けの講義資料として作成した冊子は、今後の普及啓発にも幅広く活用できるような内容に仕上げることができた。
- ・講義を受けた保育士に興味を持っていただいたので、今後は、各保育園における活用を促進できるかが課題だと思う。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

- ・てづくり紙芝居というコミュニケーションツールにより、お話として聞くことができるので堅苦しくない。
- ・協働事業を実施したことで、団体としても得たものがたくさんあった。例えば、実演場所と人的な繋がりができ、継続して実演会ができるようになった。また、保育士への講義の資料を作成する上で、製作した紙芝居を振り返り自己反省することができた。
- ・子どもたちだけではなく、子どもたちと日常的に接している保育士に対し、上演の仕方に関する講義を通して、男女共同参画に関する考え方や子どもへの意識啓発の大切さを伝えることができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

- ・今年度の事業開始直前の大震災の影響で、団体の中で協働事業に従事できる人員が減ったことで、協働事業に携わる会員が限られてしまったことが残念だった。契約事業を組織として遂行することができるのか、危ぶまれる事態だったのにも関わらず、予定していた事業をほぼやり遂げることができた。
- ・子どもたちの反応を見ていると手ごたえを感じるが、啓発事業の効果はすぐに出るものではなく、また数字で表すことは難しい。
- ・保育士への講義については、時間の制約があったため全てを伝えることは難しかったが、内容を充実させた資料を用意することで、ポイントを分かりやすく伝えることができた。

(5) 今後の具体的な展開

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 今後も双方で実施（ <input type="checkbox"/> 提案型 <input type="checkbox"/> 提案型以外） | <input checked="" type="checkbox"/> 休止または終了 |
| <input type="checkbox"/> 行政が単独で実施 | <input type="checkbox"/> 団体が単独で実施 |
| <input type="checkbox"/> その他（ | ） |

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

- ・協働事業としては終了するが、これからは希望があれば幼稚園や保育園等での実演を団体にボランティアという形で協力していただき、今後も子どもたちへの啓発に活かしたい。
- ・行政としては、講義を受けた保育士を始め、多くの方に実際に紙芝居を活用してもらえるよう呼びかけていきたい。
- ・団体としては、紙芝居の製作や実演の経験を活かし、これからも団体の目的を達成するため地域の中で活動していく。協働事業に参加して今後に繋がる道を築けたこと、また3年間継続して事業をやり遂げられたことは誇りにできることであり、良いスタートができた。

平成 2 3 年度実施 協働事業報告書

(あて先)
平塚市長

団 体 名	ひらつか市民活動連絡協議会
団体代表者	原園 信夫 印
事業担当課名	協働推進課
事業担当課長	後藤 信幸 印

平成 2 3 年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	市民活動団体間の連携強化と活動拠点の機能強化		
事業開始年度	平成 23 年～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	370,133 円	内訳	市の支出 353,000 円 団体の支出等 17,133 円
事業の概要	市民活動団体間の連携で、各団体が得意とする分野で地域貢献のために取り組める課題を探りだし、実際に実行できる計画を作る。計画は 24 年度に実施していく。活動拠点の機能強化では、センター祭りの参加団体が、自分たちの得意分野でどのような支援ができるかをお役立ちメニューとして提供していくようにしていく。		
具体的な実施内容	5 月 市民活動団体へアンケート実施 6 月 自治会へ向けアンケート実施 7 月 31 日 団体間と地域のつながりで住みよいまちをつくろう 「市民活動団体 パワーアップ（連携づくり）フォーラム」 ○基調講演「地域コミュニティの上手なつくり方・つなげ方」 講師 永沢瑛氏（NPO 法人コミュニケーションビジネスセンター 代表理事） ○グループディスカッション「私たちにできること」 8 月 28 日 第 1 回 分野別部会 進捗確認全体会議 10 月 2 日 第 2 回 分野別部会 進捗確認全体会議 12 月 4 日 第 2 回 分野別部会 進捗確認全体会議 2 月 19 日 市民活動パワーアップ講演会 「市民活動の連携の輪に入ってあなたの力を地域に活かそう！」 ○基調講演「市民活動・NPO の力で住みよいまちに」 講師 永沢瑛氏（NPO 法人コミュニケーションビジネスセンター 代表理事） ○各分野別部会の活動計画（テーマと内容）の発表 3 月 報告誌作成		

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

平成23年度実施協働事業 決算報告書

項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容、単価・数量等)
① 収入				
市の支出	360,000	353,000	-7,000	
団体の支出	17,000	17,133	133	団体から支出
事業収入	0	0	0	
収入合計	A 377,000	B 370,133	B-A -6,867	
② 支出				
通信費	46,800 (46,800)	46,762 (46,762)	-38	団体、自治会へのアンケート切手代 541枚 メール便封筒代
謝金 (講師謝礼)	97,000 (97,000)	90,000 (90,000)	-7,000	講師謝礼 45,000円 × 2名
謝金 (有償ボラ)	214,400 (197,400)	214,400 (197,400)	0	アンケート企画、集計。フォーラム企画・ファシリテーター (別紙)
印刷製本費	3,500 (3,500)	3,605 (3,605)	105	コピー代
消耗品費	15,300 (15,300)	15,366 (15,233)	66	色紙コピー用紙 2,940円、A3コピー用紙3,360円、A4コピー用紙 2,450円、インク代 6,616円
	()	()		
	()	()		
	()	()		
支出合計	C377,000 (360,000)	D370,133 (353,000)	D-C -6,867	
③ 収支決算額	B370,133円 - D 370,133円 =	0円		【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	ひらつか市民活動連絡協議会	■団体 □行政
事業名	市民活動団体間の連携強化と活動拠点の機能強化	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	4	「市民活動団体間の連携強化」について、市民活動団体と自治会へのアンケートを実施し、連携すべき部門を特定し、部会の特定テーマという形で、団体が連携し推進できた。「活動拠点の機能強化」については、センター祭り参加団体のお役立ちメニューを作成し手助けをアピールした。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	3	第3条で取り決めた役割及び責任分担について、お互いの立場を尊重し、適切な助言をいただきながら、目標を達成できた。ただし団体側で、目的の達成に対し情報を共有化することに時間がかかり、行政側へ不信感を抱かれる一面もあった。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	3	「市民活動団体間の連携強化」に向けて運営方法の決定会議に行政も一緒に入って、協議し、アンケート内容チェックなど、必要に応じ、フォーラム実施～報告冊子作製まで協議の中で進めることができた。センター祭りについても新しい試みして、お助けメニューの作成を行った。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	4	各部会運営やフォーラムの企画等は協議会が行う、フォーラムや講演会の開催の先行会場予約や講師謝金の支払い等は行政が行う、また各種印刷のサポートなど、お互いの立場を尊重し、一緒に行動できた。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	4	アンケートについては、団体独自で実施すると敬遠されがちだが、行政との協働事業として実施することで、アンケート先特に自治会の信頼を得られ、回答率59%の回答が寄せられた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	3	環境分野において連携できる団体が集まらなかったが、目標の4テーマを上回る5テーマの部会が発足できた。またセンター祭りにおいても参加団体間の交流など新しい試みを展開できた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	4	今回協働事業を実施するうえで、各団体とも本来の団体活動を超えた活動を展開しており、費用対効果は十分発揮できている。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	3	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 今年度は企画と来年度の実施計画立案の段階であり、今年度できた内容を実施することで、市民の満足度は得られると期待している。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	自治会は市民活動団体がどのような活動をしているか知る機会を得た。市民活動団体は自分の団体の活動が他に役立つか考える機会が与えられた。
団体のメリット	団体間の活動を模索から、目に見える形にすることで、市内の市民活動団体が、積極的な活動を展開するよう助言・推進できた。
市のメリット	市民活動団体が連携して地域貢献について考え実行することで、平塚の素敵なまち実現に向け少しではあるが前進できた。

(4) その他、課題やその改善方法など

実施に当たって、各団体は自分の本来の活動を持っており、負担を感じている。今後継続していくために、負担を軽減しながら、実行計画を推進する施策を考える必要性を感じる。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他 ()

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

テーマ別部会がそれぞれ連携をして、中長期継続できる体制を維持していけるかが財源確保とともに課題。
--

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	協働推進課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	市民活動団体間の連携強化と活動拠点の機能強化	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	4	市民活動の中間支援活動を行ってきた団体が協働のパートナーであったこともあり、事業実施前の協議の段階から「市民活動の活性化」という共通の目的に向かって、お互いに事業を実施できた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	3	フォーラムの運営や分野別部会のファシリテーターなど、団体の持っているノウハウが発揮された。その反面、情報紙や報告誌の作成では、一部の団体メンバーに負担が偏っていた感もあり、市のフォローも必要となった。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	4	何度も協議を重ねることの負担は小さくはなかったが、事業の進め方については、事業実施前も実施中も、何度も長時間にわたり団体と協議を重ね、意見を出し合った。それでも協働する上で、お互いを理解し共通の認識を持つためには、さらに協議をしてもよかった。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	4	協働事業を実施する中で、市民と行政という立場の違いや上下関係は感じることなく、お互い一緒になって事業を実施する同じメンバーとして、協議ではそれぞれ話し合い、事業実施ができた。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	今まで市民活動センターが単独で実施してきた分野別交流会などは一過性になりがちだったが、協働で分野別部会を継続して行うことで、たくさんの市民活動団体が連携・協力した活動に結びついた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	分野別部会で継続した検討の結果、各分野で合わせて30以上の市民活動団体等が連携し、バリアフリートイレマップの作成や災害時要援護者支援の啓発など、今までになかった5件の活動計画が展開し、地域の課題解決や新しい市民サービスに今後取り組んでいくことが決まった。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	5	フォーラムや分野別部会の運営では、当初の想定を大きく超える長時間の企画会議やファシリテーター会議が必要となり、その分の費用は団体のボランティアとなった。経費見積もりが甘かった面もあるが、その点では費用対効果は十分に得られたと言える。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 講演会参加者アンケートでは、80.0%が「団体が連携して取り組む活動が地域の課題解決や住みやすいまちづくりなどに貢献している」と答え、86.7%が「連携して取り組むことで、市民活動の活性化につながっている」と答えた。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	市民活動団体がお互い助け合ったり、連携したり、活動を活性化するきっかけになった。また、地域市民にとっては、今後の福祉の居場所づくりや災害時要援護者支援の啓発などの新しい活動が期待される。
団体のメリット	市と協働で行うことで、市の持っている情報・広報力・信頼性を活用し、事業を円滑に進めることができた。また、組織力の向上や団体間の連携を図れたと考える。
市のメリット	市では自治基本条例に掲げる協働の原則の具現化に向け、市民提案型及び行政提案型の双方向で協働事業を展開しているが、市民活動団体が力をつけ、活動が活性化することで、今後より一層、協働のまちづくりの推進が望める。

(4) その他、課題やその改善方法など

各部会の活動も含め、市民活動団体の人材や財源の安定的な確保が課題。一部のメンバーのマンパワーに頼っている感もあり、協働により団体が疲弊しないか懸念もある。当課は団体支援もあるので、協働を通して新たな人材の巻き込みや団体の組織・運営力アップも図りたい。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（ 提案型 提案型以外）
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

実施した事業の成果を踏まえて、平成24年度は「協働事業の情報発信」の事業も統合し、市民活動のコーディネーター機能や相談機能の充実を図り、提案型協働事業で実施。平成25年度以降はひらつか市民活動センターの事業や管理運営について協働の検討を行うことも視野に入れ、双方で協議、検討していく。

B：「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A：自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団体名	ひらつか市民活動連絡協議会	担当課名	協働推進課
事業名	市民活動団体間の連携強化と活動拠点の機能強化		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

フォーラムや分野別部会を開催する上で、多くの会議に時間を割き、行政と団体間の意見調整を行い、講師選び、フォーラムや部会運営等詳細にわたり、協議を通じて意思の疎通ができた。その過程で、それぞれの自己評価のとおり、「目的共有」や「対等の立場」はよくできたといえる。

役割分担で評価が低いのは「情報を共有化することに時間がかかった」といった意見も出ており、それは今回の事業のテーマの難しさの表れでもあり、課題として平成24年度の継続実施に向け、双方で協議し改善していきたい。

相互評価の意見交換の中で双方の評価点に若干の違いがあるのは、お互いの採点基準の違いであり、見解に大きな差は無いことを話し合いで確認した。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

アンケート結果によれば、市民活動団体間の連携について、多くの団体が行いたいと思っているが、忙しいあるいはやり方がわからないなどの声があったので、今後の展開において、市民を巻き込んでいけると思っている。また要援護者支援は自治会アンケートでも上位を占めているため、さらに自治体と協力して日ごろからの要援護者支援の取り組みを普及啓発できるよう部会の中で検討している。バリアフリーマップも早く情報を伝えたいと、取り組みを加速させているので24年度期待できる。

相互評価の意見交換の中で双方の評価点に若干の違いがあるのは、お互いの採点基準の違いであり、見解に大きな差は無いことを話し合いで確認した。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

市民活動団体が連携して、地域に何が貢献できるかを考えるよい機会だったと思う。それをさらに実現することで、市民活動団体と自治会が協力して、「地域のコミュニティづくり」へ展開できたらよいと思う。
現在は分野別に5つのテーマを検討しているが、今後はさらにいろいろなテーマが連携により出来上がってくることに期待が持てる。

(4) その他、課題やその改善方法など

各部会の活動も含め、市民活動団体の人材や財源の安定的な確保が課題。一部のメンバーのマンパワーに頼っている感もあり、協働により団体が疲弊しないか懸念もある。今後も事業の広報や新たな協力団体や人材の巻き込み方法の検討も視野に入れ、団体の組織・運営力アップも図っていききたい。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (提案型 提案型以外) 休止または終了
行政が単独で実施 団体が単独で実施
その他 ()

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

継続していくには、資金の課題が残るが、企業の寄付金を集める方法も検討したい。また、テーマ別部会間の連携や、事業を中長期継続するために体制を強化したい。
平成24年度は「協働事業の情報発信」の事業も統合し、市民活動のコーディネーター機能や相談機能の充実を図り、提案型協働事業で実施。

平成23年度実施 協働事業報告書

(あて先)
平塚市長

団 体 名 ひらつか自治体財政研究会

団体代表者 井上 駿 印

事業担当課名 協働推進課

事業担当課長 後藤 信幸 印

平成23年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	協働事業の情報発信		
事業開始年度	平成 23 年～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	356,910 円	内 訳	市の支出 305,710 円 ----- 団体の支出等 51,200 円
事業の概要	<p>平塚市が市民と協働でまちづくりに取り組んでいるが、その協働にかかわる情報を広く発信することで、多くの市民に協働事業を知ってもらい、まちづくりを一緒に取り組めるよう、協働情報紙を通して情報提供する。</p> <p>市民活動団体や行政が、協働にどのように取り組んでいるか、アンケートで知り、市民活動団体が協働事業に参加できるよう、相談・座談会を通して情報を提供する。</p>		
具体的な実施内容	<p>協働情報紙の発行・配布 第1号 平成24年1月 1600部 市民活動センター、公民館などへ配布 第2号 平成24年3月 1600部 市民活動センター、公民館などへ配布</p> <p>市民活動団体や行政からの意見徴収 平成23年4月～5月 市民活動団体向けアンケート：129件回答 平成24年1月 職員向けの協働事業研修会での意見募集（60件提案）（グループ及び職員個人から）</p> <p>協働相談・座談会の開催 10/27：24年度分に提案し不採択の3団体、出席者9名 11/24：協働事業に取り組みたい団体へ呼び掛け3団体、出席者10名 1/20：職員向けの協働事業研修会に出席し討論に加わる。 1/26：団体間の支え合いを考える、出席者13名 2/23：公共施設の協働運営を考える講師：水澤氏（相模原市）出席者13名</p> <p>協働事例の説明会などで紹介 職員向け協働事業説明会への出席や、ひらつか市民活動センターまつりで協働事業の参加呼びかけ、協働事例の紹介などに取り組む。</p>		

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

平成 23 年度実施協働事業 決算報告書

項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容、単価・数量等)
① 収入				
市の支出	445,000	305,710	-139,290	協働情報紙印刷を、カラー印刷からモノクロ印刷へ変更し費用の減。 配布方法の変更による部数の減。
団体の支出	51,200	51,200	0	
事業収入				
収入合計	A 496,200	B 356,910	B-A -139,290	
② 支出				
人件費	339,200 (288,000)	339,200 (288,000)	0 (0)	協働情報紙 256H×800 円=204,800 円 アンケート 80H×800 円=64,000 円 協働座談会 80H×800 円=64,000 円 HP 資料作成 8H×800 円=6,400 円
印刷費	152,000 (152,000)	13,564 (13,564)	-138,436 (-138,436)	協働情報紙印刷 計画：A4 4 ページ×2 回 カラー 12,500 部×2 回 実績：A4 合計 14 ページ(10+4) モノクロ印刷 1600 部×2 回 印刷業者の発注から、市民活動センターの印刷機の印刷へ変更。 ページ数増に伴い、カラー印刷からモノクロ印刷へ変更。 配布方法の変更による部数の減。
事務用消耗品費	5,000 (5,000)	4,146 (4,146)	-854 (-854)	・プリンター用インク代 2590 円 ・用紙代 1556 円
支出合計	C 496,200 (445,000)	D 356,910 (305,710)	D-C -139,290 (-139,290)	
③ 収支決算額	B 356,910 円 - D 356,910 円	= 0 円		【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	ひらつか自治体財政研究会	■団体 □行政
事業名	協働事業の情報発信	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	4	取り組み中の協働事業を広く知ってもらうために、協働情報紙の発行・配布、アンケートの実施、協働相談座談会の開催、協働事例の紹介などの目的は共有できた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	団体が作成した案を元に、読みやすさ・分かりやすさ、また行政的な立場からの検討など、両者の役割分担でおおむね取り組むことができたと思っています。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	3	互いが持っている経験と方針を尊重し、十分な討議を行った。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	4	お互いの立場を理解し、協力して事業に取り組むことができた。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	4	協働事業として実施することにより、他団体の協働事業の活動内容からより深い情報を入手することができ、また情報の発信もうまくできた。

評価の流れ **A : 「自己」評価シート** → B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足(評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	3	協働情報紙の発行やアンケート、協働座談会、協働事例の紹介などは達成できたが、団体数も多く検証は難しかったため、明確な目的・目標の達成度が図れなかった。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	3	協働情報紙で、地域猫を取り上げたが、地域の方に知ってもらえてその効果があったと思っている。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	3	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 協働情報紙で取り上げた「地域猫」の活動内容は、自治会や地域に広く配布し、事業の内訳を知ってもらうことができ、分かりやすかったと評価を受けてます。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	市民と行政が一緒に取り組んでいる協働事業を知る機会が増え、協働の在り方などが分かった。
団体のメリット	協働事業を広く知ってもらい、取り組みを広げるキッカケ作りを実施することができた。
市のメリット	「広報ひらつか」だけでなく、市が実施している協働事業を、広く知らせる媒体を持つことができ市民に知らせた。

(4) その他、課題やその改善方法など

提案内容の範囲が広過ぎたこと等、取り組んだ事業を深く掘り下げることは難しかった。協働事業の取り組み状態を広く市民に知ってもらえるよう、情報紙は継続して発行することが必要と思われまます。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (提案型 提案型以外) 休止または終了
 行政が単独で実施 団体が単独で実施
 その他 (ひらつか市民活動連絡協議会で取り組む)

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

団体は、次年度は協働事業から外れますが、団体で発行中の「財政白書ミニ版」で協働事業を紹介予定です。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	協働推進課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	協働事業の情報発信	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	4	協働事業が市民だけでなく、市民活動を行っている人の中でも、なかなか知られていないので、協働事業を広く知ってもらうための手段の一つとして情報紙の発行や座談会な開催が必要との共通認識に立てた。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	3	団体内部の役割分担がよく見えず、一部の団体メンバーに負担が偏っていたようにみえた。また、そのため事業の進行が遅れた感がある。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	3	情報紙が当初の予定で作成できなかったこともあり、計画スケジュール管理の面で、協議が十分でなかった部分があった。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4	協働座談会の日程や回数・内容等に変更が生じた際など、団体とよく話合って事業を進めることができた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	3	情報紙の発行、協働事業相談会・座談会は、行政としても必要性を感じていたが、協働事業により実施することができた。 ただ、すぐに波及効果が期待できる事業ではないので、成果物の今後の活用方法等検討をする必要がある。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足(評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	3	情報紙の発行や協働座談会の開催など事業自体は達成できた。広く市民へ協働事業について浸透させるという点では、さらなる工夫が必要と感じている。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	3	情報紙の発行や協働座談会の開催の効果の測定は難しい面があるが、情報紙で取り上げたことで、その事業の周知に利用されたものがある(「地域猫」への取り組み)。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	3	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 協働情報紙で取り上げた「地域猫」への取り組み中で、地域へ事業を周知していく際に、団体と行政から分かりやすいツールとして利用したとの評価を受けた。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	情報紙を見ることで、市民と行政と一緒に取り組む協働事業というものを知ることができた。
団体のメリット	団体の活動目的であるまちづくりの一端に寄与することができた。
市のメリット	市が実施している協働事業を、広く知らせるツールができたとともに、アンケートや座談会では団体のニーズを知ることができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

情報紙は継続することで効果が見えてくると思われるが、発行のタイミングや取り上げる事業の選定が重要となると考える。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他 (ひらつか市民活動連絡協議会で取り組む)

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

次年度からは、パートナーの団体がひらつか市民活動連絡協議会へと変わり、協働事業「団体間の連携強化と活動拠点の機能強化」の中で情報紙の発行を継続する予定。

B：「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A：自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団体名	ひらつか自治体財政研究会	担当課名	協働推進課
事業名	協働事業の情報発信		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

協働事業を広く知ってもらうために、協働情報紙の発行や協働座談会の開催に取り組んだが、情報紙の紙面構成や座談会の具体的な持ち方について、事業開始前の打合せがもう少し必要であった。ただ、進捗の遅れに対応した日程変更、状況に応じての内容変更などは、団体・行政側も協議して柔軟に対応できた点は評価できる。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

市民、団体、行政それぞれに対する啓発的な事業であって、その成果や評価を測るのは難しいが、他の協働事業で一部ではあるが、本事業の成果物（協働情報紙）を活用した事例があることは評価できる。

評価の流れ A：「自己」評価シート → **B：「相互」評価シート** → C：審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

協働事業について、市民や団体向けの研修や説明、職員向けの研修会などを実施する際の一つのツールができたことは評価できる。今後はその活用方法を、双方で検討していく必要がある。

(4) その他、課題やその改善方法など

情報紙の内容を充実させ、より広く活用していくには、継続することと、他の団体などを巻き込んでいくことが大切である。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（ 提案型 提案型以外） 休止または終了
 行政が単独で実施 団体が単独で実施
 その他（ひらつか市民活動連絡協議会との協働事業で取り組む）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

ひらつか自治体財政研究会が所属するひらつか市民活動連絡協議会をパートナーに変えて、協働事業「団体間の連携強化と活動拠点の機能強化」の中で情報紙の発行を継続していく予定。

平成23年度実施 協働事業報告書

(あて先)
平塚市長

団 体 名	ひらつか自治体財政研究会		
団体代表者	井上 駿		印
事業担当課名	平塚市企画部財政課 平塚市学校教育部指導室		
事業担当課長	財政課長 石田 有信		印
	指導室長 深谷 昇平		印

平成23年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	小学生向け財政パンフレットの作成		
事業開始年度	平成23年～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	197,300円	内訳	市の支出 152,500円 ----- 団体の支出等 44,800円
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 小学生向けに、平塚市の財政を紹介した数ページのパンフレットを作成し、社会科の授業用として提供する。 教師の指導用として、説明資料を作成する。 		
具体的な実施内容	<p>①財政パンフレット等編集会議の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 団体内での打ち合わせや、団体及び行政間での編集会議を10回程度実施し、小学向け財政パンフレットと教師指導用資料を作成した。 <p>②財政パンフレット等の納品</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学向け財政パンフレット：平成23年10月12日 2,500部 「平塚市民の生活や まちづくりのお金」(平塚市の財政) 4ページ 教師指導用資料：平成23年10月12日 100部 「平塚市の財政」 20ページ <p>③アンケートの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業に使用される予定が10月頃とのことだったため、11月末を目途にアンケートを実施した。(実際は1月～2月に使用される学級もあったため、最終の回収は2月となった。) 回答数：8件 検討結果：回収された結果からすると、全体的には役に立ったと判断されているように思うが、細かな部分には見直しが必要な部分も出てきたため、次年度の作成時に検討し反映させたいと考えている。 		

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

平成23年度実施協働事業 決算報告書

項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容、単価・数量等)
① 収入				
市の支出	165,000	152,500	△12,500	・ 協働事業負担金
団体の支出	44,800	44,800	0	・ 団体からの負担金
事業収入				
収入合計	A 209,800	B 197,300	B-A △12,500	
② 支出				
人件費	166,400 (121,600)	166,400 (121,600)	0 (0)	・ パンフレット作成 160H×800 円=128,000 円 ・ 教師用資料作成 48H×800 円=38,400 円
印刷費等	38,400 (38,400)	26,416 (26,416)	△11,984 (△11,984)	・ パンフレット印刷 (カラー印刷) 24,520 円 ・ 教師用資料印刷 (モノクロ印刷) 1,896 円 ※ 教師用資料を外注ではなく自前で印刷 (市民活動センターの印刷機を使用) したため経費の削減が図れた。
事務費等	5,000 (5,000)	4,484 (4,484)	△516 (△516)	・ プリンタートナー 2,390 円 ・ 用紙 2,094 円
支出合計	C 209,800 (165,000)	D 197,300 (152,500)	D-C △12,500 (△12,500)	
③ 収支決算額	B 197,300 円	- D 197,300 円	= 0 円	【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	ひらつか自治体財政研究会	■団体 □行政
事業名	小学生向け財政パンフレットの作成	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	財政パンフレットを作成し小学生の授業に提供し、平塚市の財政を知ってもらい、まちづくりへの関心を持ってもらうことに、団体も行政も目的を明確にし、協働で取り組むことが出来た。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	団体は、小学生に知ってもらいたい財政・まちづくりの情報を整理し、行政には、分かりやすさ、小学生が使用中での留意事項など、専門的な立場からの意見を編集会議で検討した。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	4	団体から提案したパンフレット案を、行政との編集会議で検討した。それぞれが持つ経験を出し合い、分かりやすいパンフレット作成を目指した。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	4	まちづくりで、これだけは知ってもらいたいと言う団体の意向を尊重してもらい、分かりやすい表現について専門的な検討を加えてもらった。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	団体は「財政白書」を、行政は「ひらつかのサイフ」など財政を分かりやすく解説した資料を発行している。これらの経験を持つ両者が一緒になって、より分かりやすいパンフレットを作成することができた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足(評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	財政パンフレット、教師用資料を作成し、先生方に提供することができた。 分かりやすさを目標としていた、指導の先生方には良いと評価してもらった。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	4	判断しづらいですが、平塚の財政を知ってもらえる効果は十分に発揮できた。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など先生方へのアンケートから良かったとの評価を得られましたが、編集会議での検討以上に用語など小学生には難しい部分もあったようで、次年度に検討したい。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	教科書には記載が無い平塚市の財政情報を小学生に提供し、市の借金や貯金、扶助費の増加など、まちづくりの問題など関心を持ってもらった。
団体のメリット	行政と協働することで、小学生や家庭、先生方などへ平塚市の財政の一端を知ってもらう資料を提供することで、まちづくりへの関心を持ってもらうことができた。
市のメリット	団体の持つ経験を活かすことができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

先生方へのアンケートは回答が少なく、アンケート方法など見直しが必要のようです。平成24年度の取り組みで検討したい。

また、10月に予定されていた授業が1月頃にずれ込むこともあるようですが、年度末ぎりぎりのアンケート回収となると検証作業が思うようにいかなかったため、パンフレットの活用を社会科の授業に限定するのではなく、ホームルームや学活等の時間を活用するなど、活用時期を早めることをお願いしていきたい。

(5) 今後の具体的な展開

■今後も双方で実施 (■提案型 □提案型以外)

□行政が単独で実施

□その他 ()

□休止または終了

□団体が単独で実施

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

来年度は継続で取り組むことが決まっているが、限られた紙面でさらに分かりやすさを追求し、小学生に提供したい。

また、このパンフレットを見た一般の市民の方から、分かりやすいとの評価も得られている。まちづくりのお金(平塚市の財政)を、広く市民の方に知ってもらえるよう、このパンフレットを公民館などの説明会に使用し、広く活用を検討する。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	平塚市 企画部 財政課 学校教育部 指導室	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	小学生向け財政パンフレットの作成	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	4	「小学生が平塚市の財政状況を知ることにより、今後のまちづくりへの興味・関心をもてるようになる」という目的は、団体及び行政間において、概ね共有できたと考えている。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	概ね当初の事業計画において予定されていた役割分担のとおり進行できたと考えている。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	3	団体及び行政間においては、お互いの特性を理解し合いながら十分な協議が行われたと考えているが、実際に成果物を活用する学校側との協議が少し足りなかったように思っている。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	4	事業の進行に当たっては、お互いの立場を理解し合いながら、協力して実施することができたと思っている。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	4	市民の目線と行政の目線、双方からの意見を出し合うことにより、これまでにない成果物が完成したのではないかと考えている。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	3	財政パンフレットや教師用資料を作成し、学校側に提供することはできたが、回収したアンケート結果からだけでは、その成果物が学校での授業内容とマッチングしたものであったのかとか、子どもたちにどう影響があったのかを検証することが難しかったため、明確な目的・目標の達成度が図れなかった。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	3	明確な目的・目標の達成度が図れなかったため、費用対効果を検証することも難しいが、回収したアンケート結果からすると「身近な平塚市の財政情報を分かりやすく教えてもらった」などの意見を多くいただいているので、それなりの効果はあったように思っている。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	3	アンケートの回収率が11%程度であったため、学校側や子どもたちの満足度を検証しづらい部分はあるが、回収したアンケート結果からすると「あまり役に立たなかった」という回答は0件で、「役にたった」が2件、「普通」が4件であったため、活用された学校では多少の満足感があったように感じている。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	教科書には記載が無い平塚市の財政情報を小学生に提供し、市の借金や貯金、扶助費の増加などを知ることにより、まちづくりへの興味・関心を持つことができた。
団体のメリット	行政の持つ情報等を活用することにより、小学生や家庭、先生方などへ平塚市の財政の一端を知ってもらう資料を提供することで、まちづくりへの関心を持ってもらうことができた。
市のメリット	団体の持つ経験を活かして、市民へわかりやすく情報提供ができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

回収したアンケート結果の中で「用語などが難しかった」「具体例が欲しかった」などの意見をもらっているため、改善できる意見を反映させながら、より活用できるパンフレットに仕上げていきたいと思っている。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（ 提案型 提案型以外）
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

回収したアンケート結果の中で、改善できる意見を反映させながら、学校の授業においてより活用できるパンフレットに仕上げていきたいと考えている。

B：「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A：自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	ひらつか自治体財政研究会	担当課名	平塚市 企画部 財政課 学校教育部 指導室
事 業 名	小学生向け財政パンフレットの作成		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

概ね評価内容は同様であった。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

概ね評価内容は同様であった。

評価の流れ A：「自己」評価シート → **B：「相互」評価シート** → C：審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

概ね評価内容は同様であることを確認した。

(4) その他、課題やその改善方法など

回収したアンケート結果の中で「用語などが難しかった」「具体例が欲しかった」などの意見をもらっているので、改善できる意見を反映させながら、より活用できるパンフレットに仕上げていきたいと思っている。

また、アンケート方法などの見直しも必要と考えている。

(5) 今後の具体的な展開

今後も双方で実施（ 提案型 提案型以外）

休止または終了

行政が単独で実施

団体が単独で実施

その他（

）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

回収したアンケート結果の中で、改善できる意見を反映させながら、学校の授業においてより活用できるパンフレットに仕上げていきたいと考えている。

また、作成したパンフレットを学校だけでなく広く活用できる方法を検討していきたいと考えている。

平成23年度実施 協働事業報告書

(あて先)
平塚市長

団体名	平塚のら猫を減らす会	
団体代表者	小山 昇	印
事業担当課名	環境政策課	
事業担当課長	安藤 政俊	印

平成23年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	「地域猫」への取り組み		
事業開始年度	平成23年～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	299,940 円	内訳	市の支出 194,340 円 ----- 団体の支出等 105,600 円
事業の概要	<p>①「地域猫」とは のら猫をエサの管理、不妊去勢手術の徹底、フンの清掃、周辺美化など地域のルールに基づいて適切に飼育管理し、のら猫の数を増やさないで一代限りの生を全うさせることで地域住民の認知を得られた猫のことである。 <地域のルール></p> <ol style="list-style-type: none"> エサやりの時間・場所を決め、後始末を必ずする。 エサ場周辺に猫用トイレを設置し、清掃をこまめにする。 不妊・去勢手術を徹底する。 地域内で話し合いを重ね、世話に対する住民の理解を得ること。 飼育責任者を明確にし、地域で責任を持つこと。 <p>②数年前に、NHKによる「ご近所の底力」という番組が「地域猫」による「のら猫問題解決法」をテーマにした放送を行った。内容としては、のら猫を地域の合意のもとで不妊・去勢手術・糞尿の清掃・エサの管理等を行い、猫を嫌いな人・好きな人・無関心な人が地域の問題として関わり、地域のコミュニティの構築を図る事例であった。この番組を参考に、「地域猫」活動を通じて、希薄になった地域のコミュニティの再構築を目指していく。</p> <p>③「地域猫」には二つの活動方法がある。「自治会ぐるみ」で行う場合と3人以上のグループでリーダーを決めて自分達で管理できるのら猫のみ行う方法である。いずれも自治会・町内会の承認を得て取り組む必要がある。</p> <p>④「地域猫」活動の定着を図るため、行政との連携を強化してお互い役割を明確にして責務を果していく。又、固有の法律を持たない、のら猫問題を学習するため関係者の講習会、専門講師の講演会等を行う。</p>		

**具体的な
実施内容**

実施年月日、実施
内容、参加者等
をご記入ください。

別添、『「地域猫」への取り組み 今までの経緯と今後の予定』参照のこと。

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

「地域猫」への取り組み 今までの経緯と今後の予定

<大島>

・大島自治会館と隣接した大島八幡神社境内に猫が5～6匹捨てられており、近隣住民の庭にフンをしたり、鳴き声がうるさいなどの被害が発生し、自治会長より相談があった。

平成22年10月15日 自治会長より電話で相談あり。

平成22年10月26日 自治会三役と周辺住民、減らす会、市環境政策課職員による打ち合わせを実施する。地域猫に関する説明を行う。

猫を管理する人が決まったものの、神社の敷地内と言うことでもあるので、総代を交えて再度説明会を行うこととなった。

平成22年11月5日 総代・自治会組長会議に同席し、改めて神社境内の猫の現状と地域猫の説明を実施する。エサやトイレの管理について、2名の住民が協力してくれることとなった。

平成22年12月21日 自治会長宅にて猫の管理者、減らす会代表と市環境政策課職員で報告会を行う。トラブル等は特段ないが、管理者以外にもエサを与えている人がいるとのことであったので、境内に看板を設置する。

平成23年2月中旬 協力者より電話連絡あり。神社境内敷地内に防犯灯が設置され、境内敷地内が夜でも暗くなくなったとのこと。また、「大島のタイガーマスク」を名乗る匿名の人物から猫のエサの寄付があったとのことであった。

～今後～ 大島自治会長が平成23年4月で変更されたので、新自治会長にも改めて地域猫の説明をする予定である。また、神社以外に猫に関するトラブルがあれば同様に解決を目指していく。

平成23年7月12日 大島自治会長（新自治会長）宅訪問し、神社においての地域猫活動についての説明をする。減らす会代表、野良猫の管理者2名、市環境政策課職員同席。前会長から引き継ぎを受け、地域猫についても既に勉強済みであるとのことであった。今のところ、神社境内及び付近で新たなトラブル等はなく、野良猫の管理は順調であるとの報告を受ける。

<田村8丁目>

・一戸建ての市営住宅の跡地。住んでいた住民が野良猫にエサを与えており、その後住宅が取り壊されてしまったものの、敷地に野良猫が集まり、近隣の畑や住居にフンをされてしまうなどのトラブルが発生しているもの。

平成22年10月27日 減らす会会員より相談あり。野良猫にエサをあげている人が近隣住民から責められているとのこと。エサをあげている人は精神疾患を患っており、入退院を繰り返すこともあるとのこと。今後、野良猫を減らすためにどうしたらよいかとの相談であった。

平成22年11月24日 エサをあげている本人から相談あり。内容は上記と同様。

平成22年12月10日 減らす会代表と市環境政策課職員で現場調査実施。エサを与えている人、近隣住民も同席。近隣住民からフン害の被害がひどいとの苦情が続出する。トイレの設置について検討する。その後、エサをあげている土地が市の所有地のため、担当課の了解を得たうえで、猫用トイレの設置を行うこととした。

平成22年12月20日 減らす会会員と市環境政策課職員で敷地内に猫用トイレの設置を行う。近隣住民にも説明し、様子を見てもらうよう説明する。

平成23年1月17日 自治会長宅にて田村での経緯と今後についての説明を行う（減らす会代表、市環境政策課職員、議員同席）。市の土地のため、今後売却等で使用できない可能性がある。少しずつエサやりやトイレの場所を移動し、河川敷等で地域猫活動をする旨説明する。自治会長より、近日中に組長会議にて説明をしてくれるとのこと。

平成23年2月10日 自治会長へ連絡。平成23年1月31日に組長会議が開かれ、自治会長より説明を行ったとのこと。組長たちからは賛同の意見があり、それならば協力するとの返事であったとのこと。

平成23年6月16日 田村8丁目自治会長・田村宮の前自治会長と面談。改めて地域猫についての説明を行った。

平成23年11月1日 田村8丁目住民より再度連絡あり。猫用のトイレを設置したが、改善していないとのこと。また、トイレとして砂を入れたプランターを設置したが、そこにゴミが捨てられてしまっているとのことであった。（同日、建築住宅課職員により撤去）

平成23年11月5日 田村宮の前住宅自治会館にて、田村住民約20名を集め、田村8丁目の野良猫について再度協議する。結果、敷地の土を耕し、トイレ代わりにして管理することで同意を得ることができた。

平成23年11月12日 田村8丁目敷地内でトイレ代わりとして、敷地内の土を耕す。
(管理者の建築住宅課とは事前に調整済み)

～その後～ 土が柔らかくなったため、猫がトイレ代わりに使用するようになり、畑へのフン害が減ったとの連絡あり。
エサやりについても、片づけ等徹底しているため、トラブルが激減した。

<龍城ヶ丘>

・数年前から龍城ヶ丘市営住宅付近で野良猫の不妊・去勢手術活動をしている減らす会会員が高齢になり、管理しきれない可能性があり、今後地元の協力者等、理解してもらったうえ、地域猫活動に結び付けられないかという相談。

平成23年5月31日 自治会長、減らす会、市環境政策課職員で現場調査を行う。猫は特にいなかったものの、夕方になると市営住宅周辺の駐車場に集まってくるとのこと。自治会長に対し、地域猫の説明をするとともに、必要であれば組長会議等で説明する旨伝える。

<立野町>

・数年以上前から、野良猫にエサを与えている住民がいて、近隣や公園などでのフン害に悩まされている。猫の数が十数匹との情報もあり、住民へ何度か自治会長が接触するも、解決しない。

平成23年7月28日 市民活動センターにて立野町自治会へ地域猫についての説明会を行う。自治会長は地域猫活動に一定の理解を示してくれた。今後、組長会議等で説明する旨伝える。

～その後～ 保健所職員と共に、エサやりの住民宅へ訪問し、地域猫活動についての説明や現場調査を実施するも、住民本人とは電話でのみ接触できたにとどまった。また、自治会長の急逝等により、平成23年度は現状把握を下のみであった。

<その他>

平成23年1月20日 SCNより取材を受ける。後日「ひらつか〜な」にて協働事業に関する番組が放映される。

平成23年度実施協働事業 決算報告書

項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容、単価・数量等)
① 収入				
市の支出	281,000	194,340	△86,660	負担金 120,000 円 報償費 30,000 円 消耗品費 131,000 円
団体の支出	119,000	105,600	△13,400	バザー等の収益
事業収入	0	0	0	
収入合計	A 400,000	B 299,940	B - A △100,060	
項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、支出内容、単価・数量等)
② 支出				
消耗品費	131,000 (131,000)	74,340 (74,340)	△56,660	猫の捕獲器 (11,800 円 × 6 基 × 1.05 = 74,340 円)
地域猫のすすめ	24,000 (0)	24,000 (0)	0	1,200 円 × 20 冊
講演会講師料	45,000 (30,000)	(0)	△45,000	(平成23年度は実施せず)
人件費	120,000 (120,000)	121,600 (120,000)	1,600	別添 人件費明細のとおり
その他経費	80,000 (0)	80,000 (0)	0	広報・印刷 (資料コピー代) 等
	(0)	(0)		
	(0)	(0)		
	(0)	(0)		
支出合計	C 400,000 (281,000)	D 299,940 (194,340)	D - C △100,060	
③ 収支決算額	B 299,940 円 - D 299,940 円	=	0 円	【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A:「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	平塚のら猫を減らす会	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	「地域猫」への取り組み	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	不妊手術を怠る家猫の子猫が遺棄され野良猫として繁殖し地域の被害トラブルの軽減と防止。猫の適正飼養の動物愛護法啓発の目的は共有出来た。 野良猫被害の困りごとを、猫が好き・嫌い・無関心、の地域住民が「地域猫」活動で稀薄化している助け合いの絆を深め、防犯・災害時の助け合い等のまちづくりの目的につなげる取り組みを共有できた。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	5	お互いに試行錯誤の点もあったが、地域の被害・トラブルに夜間出向くなど、行政の果たした役割は大きかった。特にトラブルの住民が行政が参加することで、団体では出来ない理解度を示し、協働の必要性を強く感じた。この関係を進化していく事でこの事業を深めたい。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	前半は地域の特性、地域リーダーの資質等の把握に手間取り期待した成果を得られなかった点は反省点である。その反省から現状分析・取るべき対策・計画の見直し等の協議と勉強会を実施。行政は課長以下担当者の参加で後半は団体の取り組みに弾みが付き、取り組みが進んだ。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4	地域での住民との対話、動物愛護法等の啓発、地域の問題は地域で解決を図る。等は行政が説得力がある。 野良猫の習性、不妊手術、被害防止策等は10年の経験を持つ団体の役割。双方の立場で取り組みが行われ、協働のメリットが活かされた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	まちづくりは、行政と市民がそれぞれの役割を協働して行かなければ進まないのだと感じた、野良猫問題は人の問題である。時代も進み地域に様々な問題が潜在しているが人の絆が弱く住民が問題を共有できない事も分かった。 波及効果よりむしろ問題提起につながった成果が大きい。

評価の流れ **A : 「自己」評価シート** → B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	3	目標：自治会ぐるみ取り組み 5 地区、グループ取り組み 5 地区でスタートした。自治会は 1 地区、グループ対応 8 地区をこれから地域猫へ進める地域として取り組んでいる。「地域猫」の目的は市民活動団体に浸透して理解が深まっているので、まちづくりの視点では広い意味で成果があった。総括すると、試行錯誤でここまで来たと言う実感である。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	4	1、「地域猫」メンバーの成長(勉強会等の)を評価したい。 1、議員も交えて地域全体(田村地区)の会議等で問題提起でき、猫のフンを被害畑から遠ざける効果を見た。 1、公園(夕陽ヶ丘)のウンチパトロール等に地域の参加が得られ人件費としての効果が認められる。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 地域猫の取り組みが続いている地域では、関係する市民から評価を受けている。 潜在化していた野良猫問題・被害が地域猫を周知することで顕在化してきた、まちづくりの動機として進めて行く。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	野良猫問題を役所に提言して、公に問題の解決を図る相談方法が出来た。
団体のメリット	野良猫問題を市と協働事業としたことで会への市民の評価が高まり、信頼度が増した。会員の問題意識も高くなり、動物愛護法の啓発意識も強くなった。
市のメリット	市の野良猫問題に市民団体が協働して行く事で団体の築き上げてきた専門性が活かせることが出来る事と、地域が抱える問題を行政が協働で取り組み問題の軽減を図る事への市民の期待と評価が大きい。

(4) その他、課題やその改善方法など

今後の課題は、いかに地域に周知させていくかにある、夏に備え公園砂場に埋まっている猫のフンの気化を防ぐウンチパトロール等の活動も、周辺住民を参加させたまちづくりに発展させていく事で地域の猫問題の解決動機にして行く。行政の広報活動に期待し、特にメディアの報道を効果的に使い 24 年度の「地域猫」の取り組みを具体的に前進させたい。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (■提案型 □提案型以外) □休止または終了
□行政が単独で実施 □団体が単独で実施
□その他 ()

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

地域猫活動は動物との共生を図る活動で地域の人々の問題である、動物を遺棄する心無い猫の飼養者に動物愛護法の啓発を進め、住みよいまちづくりを促進する活動と位置づけ、地域の絆を深め、安心安全のまちづくりを目指し行政との協働事業を進める。のら猫を減らす会は80名の会員の資金活動（会費・バザー・寄付等）で財源の確保をする。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	環境政策課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	「地域猫」への取り組み	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	「野良猫を減らすのではなく、野良猫のトラブルを減らす」という統一した目標については、市民団体だけでなく、市職員も交え、何度も勉強会や研修、協議を重ねた結果、市民団体の会員にも周知することができた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	野良猫のトラブルがある地域に積極的に出向き、協議などを行った。地域住民間との調整を行政が行い、市民団体が機動力を最大限生かし、地域住民へのアドバイスや、不妊去勢手術のための猫の捕獲、公園などのウンチパトロールなど、現場活動を積極的に行った。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	「地域猫」活動は地域によって千差万別であり、マニュアルと言うものが存在しない。Aの地域でうまくいくケースがBの地域では全く機能しないケースも珍しくなく、協議については、数多く行ない、臨機応変にお互いが対応できるよう配慮した。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4	「行政しかできないこと」、「市民団体でないとできないこと」を双方が理解し、お互いを補うことを常に意識して活動した。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4	野良猫のトラブルについては本来行政が対応しなければならないが、今までは人員的にも時間的にも不可能であった。一方、市民団体単独だと地域からの信頼を得るのに時間がかかる場合が多く、今回の協働事業で双方の問題点が解決できた。また、他の協働事業へのモデルにもなりつつあると感じている。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	2	目標は10地区を選定し、地域猫活動を行う予定であったが、結果としては数地区にとどまった。しかしながら、野良猫に関するトラブルを減らせた地区もあり、目的については一部達成できた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	4	行政からの支出を極力抑えるように市民団体が配慮してくれたため、少ない経費で活動することができた。不妊・去勢手術用の捕獲器の購入もでき、次年度以降活用していきたい。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）	3	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 目的が達成された地域においては、当初起こっていた市民から感謝の言葉をいただいたケースもあり、ある程度の評価は得られたと感じる。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	野良猫のフン等の被害を軽減することができた。
団体のメリット	市との協働事業と言うこともあり、地域からの信頼も得やすくなり、地域猫活動の普及・推進が素早くできるようになった。
市のメリット	野良猫に関する苦情で何度も現場に通っていたが、トラブルが減少することにより、日常の事務量が大幅に減少した。

(4) その他、課題やその改善方法など

地域猫活動はまだ市民の人から認知されているものとは言い難い。そこで、広報活動を重視する。例えば、公園などでのウンチパトロールとすることにより、地域住民へ市民団体・地域猫活動双方のアピールにつなげていく。

また、購入した捕獲器についても「地域猫活動を推進する目的」に基づき、ルールを設定していく必要がある。「捕獲するためだけ」の使用では動物愛護法にも抵触する可能性があるため、細かなルール作りが必要である。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（ 提案型 提案型以外）
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

野良猫のトラブルを減らすという目的のさらに奥には「地域コミュニティの活性化」ということがある。野良猫問題を通じて、地域住民が話し合う機会をもうけ、コミュニケーションを密にすることにより、地域で何か問題が発生した時にお互いが話し合い、助け合う習慣ができるためのきっかけ作りとなれば、地域猫活動は地域の発展に活かすことができると言える。

B：「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A：自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団体名	平塚のら猫を減らす会	担当課名	環境政策課
事業名	「地域猫」への取り組み		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

協働事業とは、「一つの目的に市民団体と行政が手を取り合って進む活動」である。今年度については、負担を双方が押し付けるのではなく、分け合うことで双方の業務を軽減させることに重点をおいた。その結果、市民団体と行政が仲良く一年を通じて地域猫活動を実施できたことは大きな成果である。また、協働事業のモデルとしてこの事業が近付いたものと考えている。今後においても、より地域猫活動推進のため、この良好な関係を進化させ、よりよい事業にしたい。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

当初の目的として、10地区で地域猫活動を行う予定であったが、数地区にとどまってしまった。これは、地域によって野良猫に対する問題のとらえ方が違い、同時にコミュニティについても千差万別で、進め方が同一の方法では通用しなかったことが原因である。そんな困難な状況の中、試行錯誤で乗り越えた市民団体の積極性に救われた一年であった。トイレの設置やウンチパトロールなど、人員や人件費については行政側の観点からはかなり削減できたと思われる。野良猫のトラブルが懸案事項だった地域において、トラブルが無くなったことは大きな成果であると言える。

評価の流れ A：「自己」評価シート → **B：「相互」評価シート** → C：審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

取組みを始めた当初は、エサやりをしている人や市職員に対して怒りながらフン害などを訴える市民がいたが、何度も現場に通い、打ち合わせを重ね、試行錯誤しながら続けていた結果、フン害も無くなり、市民からもお礼を言われるようになった。市民はフン害がなくなり、行政は苦情が無くなり、市民団体は結果を残すことで信頼と評価を得ることになった。猫を介したトラブルの減少により、多少なりとも地域住民同士のコミュニティもよくなったのではないかと。

(4) その他、課題やその改善方法など

地域猫活動という言葉自体を普及しきれなかったことは否めない。また、地域によっても千差万別だったため、活動を進めていくことに非常に苦労した。今後は公園などでのウンチパトロールも行政と市民団体で協力しあって実施し、普及活動に努めること、また、活動が難しくなったときに今年度同様、何度も協議を重ね、いろいろな方法を試してみることが大切である。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（提案型 提案型以外） 休止または終了
行政が単独で実施 団体が単独で実施
その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

地域猫活動は、元来動物との共生を図る事業である。今後も、動物愛護の啓発に努めていく。また、地域猫活動を通じて、野良猫のトラブルを減らすという目的のさらに奥には、「地域コミュニティの活性化」ということがある。野良猫問題を通じて、地域住民が話し合う機会をもうけ、コミュニケーションを密にすることにより、地域で何か問題が発生した時にお互いが話し合い、助け合う習慣ができるためのきっかけ作りとなれば、地域猫活動は地域の発展に活かすことができると言える。さらに、財源についても、行政からの支出だけに頼るのではなく、市民団体の活動（会費、バザー、寄付など）で確保するよう目指していく。

平成23年度実施 協働事業報告書

(あて先)
平塚市長

団 体 名 土屋里地里山再生グループ

団体代表者 原 安雄 印

事業担当課名 環境政策課

事業担当課長 安藤 政俊 印

平成23年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	里地里山の保全活動による地域環境再生と共生社会の確立 (グラウンドワークの推進)		
事業開始年度	平成 23年～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	1,427,292 円	内 訳	市の支出 1,263,027 円 ----- 団体の支出等 164,265 円
事業の概要	<p>グラウンドワークの推進による里地里山の保全、再生及び活用を通じて、地域環境再生と共生社会の実現を図るため、里山保全等活動に欠く事のできない参加者用通路の整備及び仮設導水パイプの設置並びに参加者用駐車場、仮設トイレの設置を始め、子どもたちや市民を対象にした環境教室・各種セミナーの開催、大学生と市民との協働による生き物・植生等調査、地元食材を使用した料理教室等を実施し、市民が自然と触れ合える、憩いの場所を創出する。</p>		
具体的な実施内容	<p>5月～6月 駐車場予定地整備準備等 7月 地元の食材を利用した料理教室 (参加者8名) 7月～10月 駐車場整備、木道作り 9月 生き物調査会準備 10月2日 生き物調査会 (参加者58名) 10月11日 キノコ狩り (参加者8名) 11月19日 収穫祭 (参加者25名) 1月～3月 導水パイプ設置等</p> <p>通年：間伐、下草刈り等の里山整備</p>		

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

平成23年度実施施設協働事業 決算報告書

項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容、単価・数量等)
① 収入				
市の支出	1,263,027	1,263,027	0	
団体の支出	247,065	164,265	△82,800	
事業収入	0	0	0	
収入合計	A 1,510,092	B 1,427,292	B-A △82,800	
② 支出				
報償費	60,000 (40,000)	60,000 (60,000)	0	イベント講師等
事務用品費・通信費	50,000 (0)	49,500 (0)	△500	電話代、切手代等
旅費交通費	30,000 (10,000)	14,220 (14,220)	△15,780	電車、バス等
食糧費 (整備費用)	60,165 (0)	55,500 (0)	△4,665	里山整備時の弁当、お茶代等
食糧費 (通年)	59,850 (0)	32,618 (0)	△27,232	イベント開催時の弁当、お茶代等
資材費 (整備費用)	399,735 (399,735)	704,964 (699,367)	305,229	間伐材、丸太杭、砂利等
資材費 (仮設導入パイプ設置)	177,925 (177,925)	18,533 (18,533)	△159,392	塩ビ管、継手等
機械リース料	230,000 (230,000)	106,994 (106,994)	△123,006	小型エンガ、点圧ローラー、小型運搬車
トイレ設置費	178,597 (178,597)	86,520 (86,520)	△92,077	簡易トイレ
広報活動費	10,000 (0)	20,000 (0)	10,000	タウン誌掲載
消耗品費 (整備費用)	46,450 (46,450)	48,138 (48,138)	1,688	鎌、ビニールシート、燃料等

消耗品費 (通年)	72,050 (50,000)	148,862 (148,862)	76,812	鎌、チェーンソー、ビニールシート等
保険料 (整備費用)	52,320 (52,320)	63,540 (63,540)	11,220	障害保険
保険料 (通年)	78,000 (78,000)	16,853 (16,853)	△61,147	障害保険
雑費・予備費	5,000 (0)	1,050 (0)	△3,950	
支出合計	C 1,510,092 (1,263,027)	D 1,427,292 (1,263,027)	D - C △82,800	
③ 収支決算額	B 1,427,292 円 - D 1,427,292 円 =	0 円		【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	土屋里地里山再生グループ	■団体 □行政
事業名	里地里山の保全活動による地域環境再生と共生社会の確立 (グランドワークの推進)	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	4	目的は達成された。グランドワークをかかげた事が地域の人々に芽生えてきたように思える。地域の人々から入会者が複数名出てきている。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	会の活動への理解と現地の実情をその都度、話し合えて共に理解した上で事業推進が行なえた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	事前の協議に200時間あまりを費やすなど、十分に協議した。この事は次につながり、地域内での話し合いに役立ったと考えられる。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4	共に事業の性質を共有できていたために、二人三脚で行う事ができた事業と考える。土地の利活用等は同じ考えに立てた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	市民活動の考え方や行動が、住民に有る行政への信頼性と合わせ、地域住民や会員に対しても頑張った分だけ成果が出る事を示し、活動への理解度は増した。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足(評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	満足している。特に進入路については、今後の活動に大変大きな意義を持った。いくつかのイベント事業実施時において、活動・行動の広がりを実感できた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	4	得られたと考える。市民活動団体において、単年度でできた事は大きい成果と考える。今後の活動により良い効果は高まっていくと思われる。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由などイベント参加者の声および近隣住民の声などで、市民活動団体で、ここまで出来るとは凄いという声が多数出ている。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	地域住民や自治会等に気兼ねなく、活動エリアを会と共に使うことができるようになって行くために、市民の憩いの場になっていく。
団体のメリット	活動の認知度が高まっていくと思われ、後継者を育てやすくなると思われる事と、地域内での話し合いがスムーズに行えると思われ、グランドワークの推進が活きてくる。
市のメリット	行政に対する、住民側の理解度が増すと思われ、苦情の窓口では無い、提案型の地域づくりの話し合いが行なえるようになる。

(4) その他、課題やその改善方法など

今後自治会を含めた、複数の団体による、提案事業が増えると思う。予算を含め行政側の柔軟性が求められる。里山活動においては、農水行政よりも環境政策で考えてほしい。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他 ()

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

本会の会員は発足当初より、農業者が集まっているにも関わらず、農業者と認められていない。再生農地での農産物の販売に力を入れることができれば、自主財源確保は前進する。、農業者扱いを望む。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	環境政策課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	里地里山の保全活動による地域環境再生と共生社会の確立 (グランドワークの推進)	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	4	市民が自然と触れ合える、憩いの場所をするという目的を共有して進めることができた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	適正であった。お互いの得意分野を活かしながら事業を進めることができた。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	5	事業開始前に十分な協議を行なった。事業実施中も随時、団体側から経過の説明や相談等を受け、市側も要望等を伝えていくことで、お互い協議しながら行うことができた。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	5	「役割分担」に沿って事業を進め、対等な立場を尊重して事業を実施することができた。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	市単独では実施することが難しい事業であったが、地元の理解が得やすく、里山整備のノウハウも豊富に持っている団体と協働することで、実施できた事業であった。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	達成することができた。ハード面の整備が完了したことで、イベント等のソフト事業が実施しやすくなり、市民の憩いの場をつくることができた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	4	ハード面の整備を行い、ソフト事業実施時の便利さが飛躍的に向上した。24年度以降も整備した場所を活かしたソフト事業を継続して行なって予定であり、高い費用対効果が得られている。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 団体が主催するイベントに多くの市民が参加しており、近隣の住民が団体の活動に参加するようになっていることから、満足度は十分に図られていると考えている。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	事業実施前は団体の活動エリアでイベントを開催しても、駐車場が無いなど不便な点が多かった。事業を実施したことでイベント開催時の利便性が飛躍的に向上した。
団体のメリット	活動エリアの整備が進んだことで、イベントを含む里山整備活動が容易になったことに加え、団体の活動に対して市民の理解が進んだ。
市のメリット	里山整備が進み、市民が自然と触れ合える憩いの場を作ることができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

里山の整備は水の流れや不法投棄の問題など、実際に作業が始まってから対処が必要なことが判明する部分も多い。特に資材費や消耗品費などについて、急に費用が必要になることも多いが、予算にある程度の柔軟性を持たせて対応することにより、限られた予算内で事業を完了することができた。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（ 提案型 提案型以外）
 行政が単独で実施 休止または終了
 その他（ 団体が単独で実施 ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

24年度については23年度に整備した駐車場等を利用してブルーベリーの植栽を行なう。これは市民参加型のイベントとして行なうが、将来的に団体の自主財源になることも期待されている。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団体名	土屋里地里山再生グループ	担当課名	環境政策課
事業名	里地里山の保全活動による地域環境再生と共生社会の確立 (グラウンドワークの推進)		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

事前に十分な協議を行ない、事業実施中にも随時協議を行なう事で、当初の目的やお互いの役割を最後まで維持しながら事業を完了することができた。団体と市、双方が長所を活かしながら協力することで、成し遂げることができた事業であったと感じている。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

駐車場、仮設トイレ、仮設導水パイプの設置、進入路の整備工事が完了し、それを活かした団体の活動エリアでの市民参加型イベントを開催したことで、当初の目標は達成したと考えられる。市民活動団体単独では難しい点も多い事業であったが、市と協働して整備が進み、最終的に事業を達成したことで、地元住民などから団体を評価する声も出ている。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

市民に対しては里山でのイベント開催時の利便性が向上し、高いメリットを産み出した。団体・市としても、里山活動に対する市民の理解が深まっていくと考えている。団体の主催している自然と触れ合えるイベントにも、多くの参加があることから、市民の憩いの場になってきていると感じている。また地元住民に対しても、団体の活動に理解が深まり、活動に積極的に参加してもらえるようになったという効果が現れている。

(4) その他、課題やその改善方法など

里山の継続的な保全をする上で欠かすことのできない再生した農地の利活用には、地権者の問題や農地法など関連する法律等もあり、団体として自由が利きにくい部分がある。解決が難しい点もあるが、引き続き団体と市で協議等を行ない、今後も改善方法を探っていきたい。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（提案型 提案型以外） 休止または終了
行政が単独で実施 団体が単独で実施
その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

駐車場や仮設トイレ等、整備された箇所を利用して、より一層のイベントの充実を図っていく。24年度の協働事業では、市民参加型のイベントとしてブルーベリーの植栽を行なうが、将来的に活動団体の自主財源になることが期待されている。

平成 23 年度実施 協働事業報告書

(あて先)
平塚市長

団 体 名	ごみを活かす会	
団体代表者	永山 寿子	印
事業担当課名	資源循環課	
事業担当課長	稲毛 義博	印

平成 23 年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	一般家庭での生ごみ処理推進事業		
事業開始年度	平成 23 年～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	233,614 円	内訳	市の支出 228,614 円 ----- 団体の支出等 5,000 円
事業の概要	市民から生ごみ処理に関する相談を受ける「生ごみ処理相談員」を養成するための講座等を行う。		
具体的な実施内容	6/1 (水) 講座 1 ガイダンス、平塚市のごみ処理の現状と課題について資源循環課が事業説明 参加者 22 名 6/11 (土) 講座 2 横浜国立大学大学院環境情報研究院金子信博教授による講演 テーマ『自然界にはゴミがない～自然のしくみを学んで私たちの暮らしを見直そう～』 参加者 27 名 7/13 (水) 講座 3 生ごみの自家処理について実践① ・コンポスターで生ごみ処理 (講師：永山寿子氏) ・電動生ごみ処理機法 (講師：松井和子氏) 参加者 18 名		
実施年月日、実施内容、参加者等をご記入ください。			

7/27 (水) 講座4

生ごみの自家処理について実践②

- ・土穴法とダンボール・腐葉土・米ぬか法 (講師：井上駿氏)
- ・EM菌法 (小島國昭氏)

参加者20名

8/10 (水) 講座5

生ごみの自家処理について実践③

- ・プランター法 (講師：小林悦子氏)
- ・パチルス菌法 (講師：佐々木貴三江氏)

参加者17名

9/7 (水) 見学1

平塚市のごみ処理施設見学(粗大ごみ破碎処理場、平塚市リサイクルプラザ、環境事業センター、遠藤原一般廃棄物最終処分場)

参加者14名

※9/21 (水) 雨天のため施設見学は中止

10/5 (水) 見学2

個人宅や企業等における生ごみ処理の取組を見学

- ・個人宅はごみを活かす会会員宅の2か所
- ・企業は日産車体、横浜ゴム、進和学園の3か所
- ・自治会はめぐみが丘自治会の1か所

参加者12名

10/26 (水) 報告会

全ての講座を通じての感想、生ごみの自家処理について実践談を意見交換

生ごみ処理相談員又は実践者の登録

ごみ処理相談員養成講座修了証の授与

参加者19名

講座1、3、4、5は市民活動センターで開催

講座2は中央図書館3階で開催

参加者にはごみを活かす会会員の他、傍聴者も含む

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

平成23年度実施協働事業 決算報告書

項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容、単価・数量等)
① 収入				
市の支出	282,200	228,614	△53,586	主に人件費の支出が半分で済んだため減額とした。
団体の支出	5,000	5,000	0	通信費のうち事務担当者電話代として使用。
事業収入	0			
収入合計	A 287,200	B 233,614	B-A △53,586	
② 支出				
謝礼 (報償費分)	65,000 (65,000)	65,000 (65,000)	0	大学講師謝礼③30,000円*1名=30,000円 (交通費含む) その他講師謝礼⑤5,000円*7名=35,000円 (交通費含む)
謝礼 (負担金分)	10,000 (10,000)	3,600 (3,600)	△6,400	資料・資材等運搬のためのガソリン代2,900円、駐車料金700円 →効率的に運搬を行ったため減額となった。
人件費	51,200 (51,200)	25,600 (25,600)	△25,600	会場設営・準備⑧800円×2h×2人×8講座=25,600円 →半分の人数により会場設営・準備を行ったため減額となった。
事務用品費	91,000 (91,000)	91,309 (91,309)	309	用紙代1,125円、プリンターインク代5,030円、 相談員表作成費①158円×300個×消費税5%=49,770円 テキスト作成費⑤500円×30冊=15,000円 文具代5,984円 (講習会用フアイル、名札ケース) 資料・資材代3,920円 (腐葉土、地図等資料)、印刷代10,480円 →講座資料で使用する文具、資料及び印刷代が予定より多くなかったため増額となった。
通信費	20,000 (15,000)	10,620 (5,620)	△9,380	封筒・切手代4,380円、事務担当者電話代5,000円 (団体の支出) →予定していた程通信費はかからなかったため減額となった。
使用料	50,000 (50,000)	37,485 (37,485)	△12,515	マイクロバス借上げ料⑩37,485円*1回=37,485円 →バス会社との交渉により割引があったため減額となった。
支出合計	C 287,200 (282,200)	D 233,614 (228,614)	D-C △53,586	
③ 収支決算額	B 233,614円 - D 233,614円	= 0円		
【備考】				

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	ごみを活かす会	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	一般家庭での生ごみ処理推進事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	4	事業後の市の「環境基本計画」「地球温暖化対策実行計画」に「自家処理」の文字があることは、この事業の目的を理解し共有した結果であると考えます。また、担当者自身も実践したことは高く評価できる。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	3	資料の印刷は予算の関係からも会の役割とすべきだった。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	事業の打ち合わせは14回にもなり、各講座終修了時にも簡単な意見交換・打ち合わせを行った。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4	対等な立場を理解し、十分に協議して事業を実施した。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4	・講座の中での質疑が市の施策に及んだ際には、即座に回答、説明することができた。 ・市のごみ処理の講義や施設見学により、市の現状が理解できたと受講者から評価され、意識の向上につながった。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	2	相談員30名の目標は達成できなかった。(相談員は受講者18名中の5名と会員6名で計11名)
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	3	「生ゴミ処理相談員」が誕生したこと自体、平塚市では初めてのことである。これから活動を増やし、ステッカーを表示し、各イベント等で広報していくことで、ゴミに対する市民意識の向上を促していけると考える。従って費用対効果は今後の活動で得られると考えている。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など各講座ごとに①説明の分かりやすさ、②十分な資料、③時間は足りたか、④期待に応えられたか、⑤主催者の対応、の設問でアンケートを実施した。結果は、10回×5の設問に対して84%の満足度を得た。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	初めての人でも自分に合った方法で着手できた。また、すでに実践している人もレベルアップを図ることができ、もっと進めようと意欲が湧いてきた。
団体のメリット	相談員の存在は会の活動を進める上で大きな力となる。実践している人も情報や知識を得たいと考えていることがよく分かり、自家処理を進めていく自信につながった。会員の増加につながった。
市のメリット	相談員・実践者が登録したことで、市民の参加意欲に応えることができるし、ゴミ減量化の施策に寄与できる。

(4) その他、課題やその改善方法など

- ・開催日を平日と土・日曜日の両日とし受講しやすくする。
- ・相談員の活動を各地域で積極的に行っていくには自治会の協力が不可欠であり、自治会への働きかけを検討する必要がある。

(5) 今後の具体的な展開

■今後も双方で実施 (■提案型 □提案型以外)

□行政が単独で実施

□その他 ()

□休止または終了

□団体が単独で実施

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

市役所に生ゴミ処理相談窓口(看板や受付など)を設置し、市民が何時でも気軽に相談出来、情報が得られるようにする。/その実務を本会が担当し、必要経費を予算化することで会の財源の一部としたい。/将来的には「ごみ減量協議会」を発足させ「啓発・実行」をごみ減量化婦人の会と分担してごみ減量化を推進したいと考えている。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	資源循環課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	一般家庭での生ごみ処理推進事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	生ごみの自家処理を通じて、ごみの減量化、資源化を図っていくという目的は達成できた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	協働契約書第3条のとおり、市民活動団体及び市の強みを活かすことができた。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	3	アンケート結果や講座の様子から受講生が求めているものを提供しようと協議を重ねるようになった。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	4	生ごみの自家処理を通じて、ごみの減量化、資源化を図っていくという目的のもと、お互いの強みを発揮できるよう業務の明確化を図った。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	3	市民活動団体にはこれまで蓄積してきた生ごみを自家処理する経験やノウハウがあり、市にはコンポスターの斡旋や電動生ごみ処理機の購入費を補助する事業がある。関連をもたせることで、購入者に対するアフターケアが可能になってきており、効果は高まってきている。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	3	講座を通じて生ごみ処理相談員を30名育成することは実現できなかった。（本講座では4名を育成）
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	3	今後、生ごみ処理相談員及び実践者となった市民が生ごみの自家処理について普及啓発することにより費用対効果は得られると考える。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 毎回の講座終了後に内容に対する意見や感想についてアンケートを実施。アンケート結果からは高い満足度が得られたとの回答があり。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	コンポスターや電動生ごみ処理機等の購入者は使用方法や疑問点について相談ができた。
団体のメリット	市民活動団体が長年蓄積してきた生ごみの自家処理に関する経験やノウハウを発揮できた。
市のメリット	市民活動団体の経験やノウハウと、市のコンポスターの斡旋等が関連をもつことで、購入者に対するアフターケアが可能になってきている。

(4) その他、課題やその改善方法など

生ごみを自家処理する目的や楽しみを一人でも多くの市民に伝えるため、講座内容や周知の方法等について工夫が必要である。

(5) 今後の具体的な展開

■今後も双方で実施（■提案型 □提案型以外）

□行政が単独で実施

□その他（

□休止または終了

□団体が単独で実施

）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

市民から生ごみの自家処理方法について相談を求められた際の対応（生ごみ処理相談員の派遣等）について協働団体との検討が必要である。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	ごみを活かす会	担当課名	資源循環課
事 業 名	一般家庭での生ごみ処理推進事業		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

- ・市の施策につながることで実感でき、取組に対する自信につながった。
- ・市が関与していることで信頼が増し、これまでも生ごみの自家処理に取り組んでいる人、またこれから取り組もうと思っている人等、様々な市民層の掘り起こしにつながった。
- ・同じごみの減量化、資源化を目標にはしているものの、これまでは市と市民団体の間には壁のようなものがあつたが、協働事業を通じてなくなってきた。
- ・市民団体の経験やノウハウを活用するため、様々な広報媒体を活用していくべきである。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

- ・「目的・目標の達成」について
生ごみ処理相談員の養成数は目標値に届かなかったが、生ごみ処理実践者も含めた養成を行うことで取組の裾野を広げることができた。
- ・「費用対効果」について
今回養成した相談員並びに実践者が地域で活動することにより得られるものとする。
- ・「受益者サービス」について
各講座終了後に行ったアンケート結果から 8 割以上の満足度を得ることができた。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

- ・これまで市はコンポスターの斡旋や電動生ごみ処理機の購入補助を行い、市民活動団体はその機器等の使用方法について研究に勤しんできた。今回の協働事業を通じて、その2つが密接に関係を持つにいたり、市民が手軽に生ごみの自家処理を進めるにあたっての環境が整備されてきた。
- ・今後は協働事業の受講生の声を反映した情報冊子等を市のホームページ等で公開することで、市民は容易に生ごみの自家処理について知識を深めることができるようになる。

(4) その他、課題やその改善方法など

- ・広報強化として「広報ひらつか」の他にも「ごみ通信」や「ごみ収集カレンダー」等に情報を掲載する。
- ・ごみの減量化を標榜する各種団体に生ごみの自家処理について普及を呼びかける。
- ・生ごみが減ればカラスや猫による被害も軽減する。ごみステーション問題の解決策の一助として自治会への協力を求める。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（提案型 提案型以外） 休止または終了
行政が単独で実施 団体が単独で実施
その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

- ・市民から生ごみの自家処理について相談を求められた際の対応（生ごみ処理相談員の派遣や対価等）について、市と市民活動団体の間で検討が必要である。

平成23年度実施 協働事業報告書

(あて先)
平塚市長

団体名	ひらつか防災まちづくりの会
団体代表者	篠原 憲一 印
事業担当課名	防災危機管理課
事業担当課長	二見 博幸 印

平成23年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	地域防災活動者育成研修の実施及び防災ニュースの発行		
事業開始年度	平成 23年～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	811,232 円	内訳	市の支出 766,000 円 ----- 団体の支出等 45,232 円
事業の概要	<p>地域の防災力を高めるため、地域において的確な応急対策と組織的・効果的な防災活動を推進できる指導者を養成するための研修会を行う。</p> <p>また、地域の防災に関する取組等を紹介し、自主防災組織運営に役立つ情報を、防災ニュースとして提供する。</p>		
具体的な実施内容	<p>【地域防災活動者育成研修（初級編）】の実施 参加者：自主防災組織役員等 計200名 第1回 6/19 内容：講話 阪神淡路大震災語り部 長岡照子氏「大震災への備え」 神奈川大学教授「東日本大震災をどうとらえるか」等 （第2、3回は、市単独事業） 第4回目 10/23 内容：ワークショップ「クロスロード」</p> <p>【地域防災活動者育成研修（中級編）】の実施 参加者：自主防災組織役員 51名 第1回 11/12 内容：講話「平塚市の地盤と地域特性」等 第2回 12/4 内容：フィールドワーク 「防災マップの作成」 第3回 1/14 内容：フィールドワーク 「防災マップの作成」 第4回 2/4 内容：講話「まち歩きによる防災マップの作成と活用」等</p> <p>【防災ニュースの発行】 24年3月 全自治会に配付</p>		
実施年月日、実施内容、参加者等をご記入ください。			

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以上

平成23年度実施協働事業 決算報告書

項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容、単価・数量等)
① 収入				
市の支出	766,000	766,000	0	
団体の支出	30,000	45,232	15,232	団体からの支出
事業収入	0	0		
収入合計	A 796,000	B 811,232	B-A 15,232	
② 支出				
講師謝礼	190,000 (190,000)	190,000 (190,000)	0	長岡照子氏 70,000円、荏本孝久教授 120,000円
人件費	123,000 (123,000)	123,000 (123,000)	0	・初級研修WSファシリテーター①×3h×10名×2回 ・中級研修まちあるきファシリテーター②×1000円×6h×7名 ・中級研修WSファシリテーター③×1000円×3h×7名
人件費委託料	395,200 (395,200)	395,200 (376,800)	0	アンケート集計 初級研修：宿題 20h、第4回 10h 中級 10h 企画 初級① 2h×6人、④4h×6人、中級①4h×6、②4h×6人×2日他
事務用品	33,300 (33,300)	27,825 (27,600)	-5,475	紙代：13,370、初級ポスター等：880、まち歩き備品：5,410 まち歩き地図等：6,886、中級修了書 1,279
食糧費	30,000 (0)	25,857 (0)	-4,143	初級WSファシリテーター①昼食代、準備おにぎり第等
印刷費	1,000 (1,000)	10,680 (10,600)	9,680	中級活動者研修 資料印刷・コピー代
通信費	10,000 (10,000)	35,370 (35,000)	25,370	葉書代・郵送費：9,300、書類郵送費(講師宛て)：1,910 宅ファイル通信費：3,760、防災二ユ一ス宅配：20,400
旅費・交通費	13,500 (13,500)	3,300 (3,000)	-10,200	講師駐車代
支出合計	C 796,000 (766,000)	D 811,232 (766,000)	D-C 15,232	
③ 収支決算額	B811,232円 - D	811,232円 = 0円		【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	ひらつか防災まちづくりの会	■団体 □行政
事業名	地域防災活動者育成研修の実施及び防災ニュースの発行	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	4	地域防災活動者育成研修で、自主防災の強化に役立つメニューを提供するという目的に対し、中級編では40名の募集に51名応募するなど、防災意欲が見られ、協働事業の成果が上がってきている。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	3	おおむね協働のルールで決めた役割分担で実施できたが、行政との調整で大幅に遅れた防災ニュースの発行については、記事の指導のみで、印刷・発送は会独自でやらざるを得なかった。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	3	協議時間が限られた中で、効率的な協議ができず、実施事業の直前まで調整が必要になることがあった。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4	地域防災活動者研修については企画運営について、団体にまかす、自治体向け文書発行については、ひな形の提示、会場の手配は行政が行うなど、決められた役割で推移できた。防災ニュースについては、初めての試みであり行政との調整がつかず、最終まで発行がずれ込んだ。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4	協働事業の対象者が、自治会や自主防災会であり、行政との協働でないと、なかなか理解や信頼を得られないので、協働事業をすることにより、少しずつ団体への信頼をしていただけるようになった。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	地域防災活動者研修では40名の募集に対し、51名が応募するなど、初級・中級とも成功した。防災ニュースは発行が大幅に遅れたが、平塚の自主防災のお手伝いをし情報を提供するという観点から、発行できたことで、すべての事業が完了できた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	5	阪神淡路大震災の語り部を呼んで、直下型地震への備えを再認識し、併せて3・11の状況を知ってもらうなど、講師交通費がかかったが、受講者に喜んでもらった。また中級においても、平塚の地盤を知ってもらうことで地震対策を進めるなど、費用対効果は十分発揮できた。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 地域防災活動者育成研修に初級受講者から51名の参加を得られ、初級・中級ともに参加者から好感を得られている。また大幅に遅れた防災ニュースも自治会の方々からは会うたびに評判よく、もっと部数が欲しかったと言われている

(3) 実施したメリット

市民のメリット	自主防災会の人々が力をつけることで、自分たちのまちを災害から強いまちにすることができる。
団体のメリット	行政と協働することで、自治体への団体の信用が得られ、いろいろな懇談会がやりやすかった。
市のメリット	自主防災組織の人材育成の一端を団体に任せることで、多様な知識を自主防災組織の人に与えることができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

防災ニュースの発行において、団体の中の調整、集約、一本化、また団体と行政間との調整がともにスムーズにいかず、大幅に発行が遅れた。思いをストレートに伝えたい市民団体と平等、公平さや軋轢を避けたい行政とでは協働でのニュース発行は非常に難しい。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（提案型 提案型以外）
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他（来年度以降については意見交換して決める）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	防災危機管理課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	地域防災活動者育成研修の実施及び防災ニュースの発行	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	3	自主防災組織の育成及び組織の活性化のための、事業を実施できた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	3	当初の案のとおり、概ね分担ができた。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	2	効率的に短時間で実施することができなかった。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	4	役割分担に基づき、対等に対処した。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	3	専門知識のある講師の選定や、スタッフを用意し、受講者の要望に対応できた。

評価の流れ **A : 「自己」評価シート** → B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	3	地域防災活動者育成研修については、受講者が地域にもどり指導者として、防災組織を運営できるようになるまでは、今後もフォローが必要。 防災ニュースに関しては、編集参加者同士のネットワークづくりには至らなかった。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	4	地域の下見や下調べなど、事前準備にかなり時間を要する事業であることから、経費にあったサービスの提供ができた。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 中級研修は、9割以上からためになったとの評価を受けた。

(3) 実施したメリット

市民の メリット	自主防災活動の基礎を学ぶことができた。
団体の メリット	自主防災活動の活性化に貢献できた。
市の メリット	自主防災組織支援の幅を厚くすることができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

スタッフ不足であり、予定が遅れてしまうことがあり、事業の再検討が必要。特に防災ニュースに関しては、見易さ、誤解の無い表現等、市の求めるレベルに達していなかったため、編集、校正作業が負担になった。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（ 提案型 提案型以外）
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他（事業を精査した上で、提案型以外の事業で実施。）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	平塚市	担当課名	防災危機管理課
事 業 名	地域防災活動者育成研修の実施及び防災ニュースの発行		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

自主防災組織の育成及び組織の活性化のため、有効な事業を実施できた。
 役割分担の中で作業は行われたが、共通理解が一部不足しているところがあり進行管理に支障をきたした。
 新しい事業に関しても評価が良く、団体側の専門知識のある講師や、ファシリテーターの協力が得られ、協働事業が受講者側にも受け入れられた。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

地域防災活動者育成研修については、受講者の関心が高く概ね良い評価を得たが、各自主防災組織において、リーダーとして活動するには、今後ともフォローをしていく必要がある。
 ニュースについては、追加要望の声もあることから、自主防災組織で有効に活用されているものとする。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

自主防災組織への支援、情報提供の幅を広げることができ、自主防災組織役員の更に掘り下げて地域を知りたいという要望に応えることができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

事前準備や下見など、目に見えない事業量が多いため、直前での資料作成や作業が多くなってしまった。今後は、事業の見直しも含め、仕事量を十分考慮した上、協働事業を実施していくことが必要。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（提案型 提案型以外） 休止または終了
行政が単独で実施 団体が単独で実施
その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

関連事業にも ご参加ください！

協働事業・市民活動に関連する次の事業にも、皆様、ぜひご参加ください。

- **新規登録団体歓迎交流会** 5月18日(金) 18:00~20:00
「はじめまして、以後よろしく。『連携』は次のステップへのキーワード」
自分たちの活動をアピールし、他団体と連携していきましょう！
※市民活動センターの支援事業や制度の説明なども行います。
- **市民提案型協働事業・企画プレゼンテーション** 6月16日(土) 14:00~
平成25年度実施の市民提案型協働事業に応募した市民活動団体が、事業の企画案をプレゼンテーションし、事業担当課と意見交換を行います。
※市民提案型協働事業の募集期間：4月20日(金)~5月21日(月)
- **行政提案型協働事業・事業テーマのプレゼンテーション** 7月13日(金) 18:00~
平成25年度に行政提案型協働事業として実施する事業のテーマについて、市民活動団体への説明会と事業担当課との意見交換を行います。
※行政提案型協働事業の募集期間：7月13日(金)~8月13日(月)
- **市民活動センターまつり** 9月30日(土) 10:00~15:30
市民活動団体の日頃の活動の発表や展示のほか、バザーやパフォーマンスなどを実施。

いずれも開催場所はひらつか市民活動センター、参加無料です。

協働事業についてのご相談・お問い合わせは、

協働推進課市民協働担当へ **21-7534**